

積送品即座、相殺ナラハルハ數多ク、場金ニ不貸ナリ

日記帳

明治三十年六月			
一日			
レ	委託販賣ノ爲メ大阪齋藤商店へ向ケ左ノ通り積送ヲナス		
	銚子縮 五百反 金壹圓替	¥ 500	
	右積送諸雜費現金ニテ支拂フ	" 4	¥ 504
廿日			
レ	本月一日大阪齋藤商店へ向ケ積送リタル銚子縮五百反賣上濟ノ由ニテ仕切狀ヲ送付セラル但シ手取金ハ同店へ貸トス	" 600	

仕譯帳

明治三十年六月			
一日			
第一號大阪積送品	諸口	" 504	
	商 品		¥ 500
	現 金	" 4	
廿日			
齋藤商店		" 600	
	第一號大阪積送品		" 600

一八九

例題

明治三十年六月一日、委託販賣の爲め大阪齋藤商店へ向け左の積送をなす

銚子縮 五百反 金壹圓替 此代金五百圓也

右積送諸雜費現金にて仕拂ふ金四圓也

二十日、本月一日大阪齋藤商店へ向け積送りたる銚子縮五百反賣上濟の由にて仕切狀を送付せらる當店手取金六百圓也齋藤へ貸金となる

一八八

委託品

第二、委託品

委託品とは積送品の反對にて當方に於て取引先の代理人と爲り取引先より商品の賣捌きを委託せられたる際に生ずる所の勘定なり去れど委託品を請取りしのみにては其所有權我に歸せざるか故に素より我簿記計算に關係を生ずるものに非ざれば其代價は之を帳簿に記するに及ばず只夫に對し運賃其他を立替支拂ひたるべきのみ其丈の金額を此勘定の借方に記入するに止まるのみ而して賣捌きたる時は其都度其金額を貸方に記入し愈々賣捌濟と爲り賣上の仕切を爲すの期に至りて當方の手數料を算定し貸方賣上總高より立替金手數料等一切を差引き殘額を荷主の手取金と爲し日記帳より仕譯帳を経て手數料及び未だ記入せざる立替金と手取金の和を此勘定の借方に登記し全時に荷主(人名勘定)の貸方に其手取金を記入し以て此口座を結算するものとす(但し直ちに現金にて荷主の手取金を差送りしときは別に荷主の口取を開くに及ばざるや勿論なり)

委託品勘定は委託品と云ふ語に荷主の名前を冠して之を元張の口座となす

を通例とす例へは神戸山形商店より委託せられしものなれば山形商店委託品又大阪岡野商店より積送られしものなれば岡野商店委託品と爲すか如し而して若し同荷主より屢々委託品を送り付けらるゝときは順次に其番號を附して之を區別すること猶積送品に番號を附するか如し然れども數多の荷主より委託品を受くるときは一々元帳に其口座を開かず元帳面には一括して委託品若くは受賣勘定なる一口座に記入し別に補助帳を設けて一々其計算を明かにするを便とす

今左に委託品の荷受より賣上濟となり結算に至る迄日記帳及び仕譯帳の記入式を掲げむ

例題

明治三十年六月一日、神戸岩橋大助より當地に於て賣捌の爲め豫て積送られたる同人第一委託品到着す

化粧石鹼蜂形 五百打 全蝶形 五百打

右運賃金拾八圓通運會社へ現金にて拂ふ

日記帳

明治三十年六月			
レ	<p>神戶岩橋大助ヨリ當地ニテ賣捌ノ爲メ第一委托品到着ス</p> <p>化粧石鹼蜂形 五百打</p> <p>全 蝶形 五百打</p> <p>右運賃通運會社へ現金ニテ仕拂フ</p>	¥ 18	—
レ	<p>川村登へ掛ニテ賣渡ス</p> <p>化粧石鹼蜂形參百打(岩橋大助第一委托品)</p> <p>金四拾錢替 ¥ 120—</p> <p>全 蝶形貳百打(同上)金參拾五錢替 „ 70—</p>	„ 190	—
レ	<p>福田商店へ同店振出本日附三十日限約手ニテ賣渡ス</p> <p>化粧石鹼蝶形參百打(同上)金參拾五錢替 ¥ 105—</p> <p>全 蜂形貳百打(同上)金四拾錢替 „ 80—</p>	„ 185	—
レ	<p>岩橋大助第一委托品賣上濟ニ付結算ヲナシ仕切書ヲ送付ス</p> <p>受賣入費(庫敷廣告料等) ¥ 32—</p> <p>手 數 料 賣上高之 5% „ 18.75</p> <p>岩橋大助手取金 „ 306.25</p>	„ 357	—

一九三

五日、川村登へ掛にて賣渡す

化粧石鹼蜂形參百打岩橋大助第一委托品) 金四拾錢替 代金百貳拾圓也

全 蝶形 貳百打右同斷) 金參拾五錢替代金七拾圓也

合計 金百九拾圓也

十日、福田商店へ同店振出本日附三十日限約束手形にて賣渡す

化粧石鹼蝶形參百打岩橋大助第一委托品) 金參拾五錢替代金百〇五圓也

全 蜂形 貳百打右同斷) 金四拾錢替 代金八拾圓也

合計 金百八拾五圓也

全日、岩橋大助第一委托品賣捌濟に付結算をなし仕切書を送付す

賣上高 三〇六.二五

内運賃 一八.四

受賣入費(庫敷廣告料等) 三二.一

手數料 賣上高之五分 一八.七五

差引手取金 三〇六.二五

合計 六八七.五

三〇六.二五

一九二

社 譯 帳

明治三十年六月				
一日	岩橋大助第一委托品	18		
	現金		18	
五日	川村登	190		
	岩橋大助第一委托品		190	
十日	受取手形	185		
	岩橋大助第一委托品		185	
同日	岩橋大助第一委托品 諸口	357		
	受賣入費		32	
	手数料		18	75
	岩橋大助		306	25

買付委託

記帳式

委託品の一種に買付委託と稱するものあり通常の委託品は荷主より貨物を送付られ之が賣捌きに従事することなれども買付委託は全く之と其趣きを異にし荷主より或商品の買入方を依頼せらるゝ場合を謂ふ今左に例題を設けて之か仕譯式を示さむ

例 (一) 大坂駒澤商店より買付委託を受け左の品買付け代金第一銀行小切手にて支拂ふ

銚子縮 紺地物 千反 金貳圓五拾錢替 代金貳千五百圓也
全 白地物 千反 金壹圓替 代金千圓也

(二) 右買付委託品を積送り諸掛金六拾四圓五拾錢現金にて支拂ひ送状を郵送す

送り状

一金貳千五百圓也 銚子縮紺地物 千反 金貳圓五拾錢替
一金壹千圓也 全 白地物 千反 金壹圓替
合計金參千五百圓也

諸掛り

一金五拾圓也

一金九圓五拾錢也

一金五圓也

合計金六拾四圓五拾錢也

一金七拾壹圓貳拾九錢也

總計金參千六百參拾五圓七拾九錢也

以上

運賃

荷造費

雜費

手數料

仕譯式

(一) (借) 駒澤商店 7,350.00 (貸) 貯座預金 7,350.00

(二) (借) 駒澤商店 7,135.790 (貸) 現金 7,645.00

現金 7,645.00

掛帳簿 7,712.90

右仕譯式は取引の起るや否や人名勘定を設け記入するものなれども直ちに

Yes.

組合商品

記帳式

第一法

人名勘定を以てせずして買付委託品なる勘定口座を開き之を處理するも亦一法とす蓋し委託販賣及び買付委託の如きは元來他人の計算を以て取引を爲すものなるか故に勘定計算の上に於ても直ちに其委託者の口座を設け之に記入する素より妨げなきなり

第三 組合商品 (Goods on Joint Account.)

組合商品勘定とは二人以上特約を結び或地に於て商品を賣捌き其より生ずる損益を共分する場合に生ずる勘定科目にして其記帳式三種あり今左に例を擧げて之を説明せむ

例 香港甲某大坂乙某の二人組合約束を結ぶ香港より大坂に向け商品壹千

五百圓を積送り大坂に於て之を販賣す損益は甲乙等分の約束なり

一 販賣せんとする物品の所有者は販賣人に物品を積送りたる時通常の委託品を送付したるか如くに見做し荷受人に於ても亦通常の委託品を預りたるか如くに記帳す而して物品賣買済の上損益を計算して已れに收入すへきものは之を收め已れより支出すへきものは之を支出

すと云ふ様に記帳するものなり
此法により前例を仕譯するときは左の如し

甲の帳簿
借 金 1500—
貸 品 1500—

乙の帳簿に於ては之を記帳せず若し運賃其他の立替金あるときは組合販賣品を借とし金銀を貸とすへし

第二法

二 第二法は法律上の文字に適へる記帳式にして三法中最も正しきものなり契約は元來損益分擔の約束なれば販賣人の不熟練怠慢等にて生したる損益若くは天災地變其他止むを得ざる事情より生したる損害は各組合人に於て之を分擔せざるへからず故に己れか損益引受高に對する權利義務は各自之を帶ぶる様に記帳するものなり之を分擔式と云ふ

此法に據りて仕譯するときは左の如し

甲の帳簿
借 品 1500—
貸 品 1500—

大坂乙 某	750—	香港甲 某	750—
乙の帳簿	組合販賣品 750—	金銀	100— (立替金)
	” ” 100—		

三 荷出人は其物品を全く荷受人に賣渡したるか如く記帳し荷受人は亦全く其物品を己れに引受け自己の財産たるか如く記帳するなり之を全擔式と云ふ

此法に據りて仕譯するときは左の如し

甲の帳簿	大坂乙 某	1500—	商品	1500—
乙の帳簿	組合販賣品	1500—	香港甲 某	1500—
	” ”	100—	金銀	100—

今乙某此物品を金貳千圓に賣捌きたりとせば三法の内何れを問はず左の通記帳すへし

金銀或は其他の受取たる物件 2000—
組合販賣品 2000—

第三法

然而して賣上仕切状 account sales の摘要は左の如しと假定す

總賣上高	7 2000—
内	
當店手取金	7 150—
當立替連賃	" 100—
廣告料	" 50—
其他諸掛料	" 50—
手取金	7 350—
甲	7 1650—
其	7 2000—

之をこの勘定に於て第一法に依り記入すれば左の如し

組合販賣品		甲	其
金	100	金	2000
銀口	1900	組合販賣品	1650
損	益	手取料	組合販賣品
	50		50

又第二法に依り記入すれば左の如し

諸掛		組合販賣品	50	
組合販賣品		甲	其	
甲	金	750	金	2000
其	銀口	100	組合販賣品	750
金	諸口	1150	組合販賣品	900
損	益	手取料	組合販賣品	
	50		50	

第三法に據り記入すれば左の如し

組合販賣品		甲 某	
甲 某	1500	組合販賣品	1500
金 銀	100	全	上 150
口 諸	400		

損 益		手 數 料	
組合販賣品	150	組合販賣品	50
掛 諸			
組合販賣品	50		

組合商業の第二例

香港甲及び大坂乙東京丙の三人約束を結び組合商業をなし甲より丙に向て商品四千貳百圓を送り其賣捌を爲さしむ又乙よりは同く參千六百圓丙に送る損益分担の割合は各同等なりとす
右商品丙に於て九千圓に賣れたり其結算如何但し運賃貳百圓手数料百五拾圓諸入費七拾五圓也

第一法

(甲)		(乙)		(丙)	
組合販賣品	4200	組合販賣品	3600	組合販賣品	200
商 品	4200	商 品	3600	金 銀	200
丙 某	4458.3	丙 某	3858.4	組合販賣品	8800
組合販賣品	4458.3	組合販賣品	3858.4	手 數 料	150
				掛 益	75
				損 甲	258.3
				乙	4458.3
					3858.4

回別表

(甲)		(乙)		(丙)	
組合販賣品	2800	組合販賣品	2400	組合販賣品	200
乙 某	1400	甲 某	1200	金 銀	200
商 品	1400	商 品	1400		
組合販賣品	1200	組合販賣品	1400		
乙	1200	甲	1400		
		某	1400		

丙 某 組合賣品 4258.3	丙 某 組合賣品 4058.4	(丙) 組合賣品 8800 手數料 150 掛 75 諸損 258.3 甲 某 4258.3 乙 某 4058.4
--------------------	--------------------	-----------------------------------------------------------------------------

第二表

(甲) 組合賣品 2600 丙 1400 乙 商 1400	(乙) 組合賣品 2600 甲 1200 丙 商 1200	(丙) 組合賣品 2600 甲 1400 乙 200 金 銀 200
丙 2858.3 組合賣品 2858.3	丙 2858.4 組合賣品 2858.4	組合賣品 6200 手數料 150

諸損 75 掛 258.3 甲 2858.3 乙 2858.4

第三表

(甲) 丙 4200 商 品 4200	(乙) 丙 3600 商 品 3600	(丙) 組合賣品 8000 甲 2400 乙 3600 金 銀 200
丙 258.3 損 益 258.3	丙 258.4 損 益 258.4	組合賣品 1000 手數料 150 掛 75 諸損 258.3 甲 258.3 乙 258.4

法				乙 4000— 金銀 100—
別	丁 1000— 乙 1000—	甲 1000— 丙 1000— 丁 2000— 商品 4000—	丁 1000— 乙 1000—	組合品 4000— 金 上 100— 金銀 100— 甲 1000— 乙 2000— 丙 1000—
法				

組合約束第四例、A、(第貳法にて記帳の事)

大坂甲某及び神戸乙某並に當店の三名組合にて賣捌の爲め甲某より中國米五百石此元價金四千圓乙某より全千五百石此元價金壹萬貳千圓を受取りたり但し損益は平等の約束なり右運賃双方合せて金九百圓陸揚諸入費同金八拾七圓五拾錢支拂ふ

B、

前例に於て今假に損益負擔の割合を甲はまこ乙はまき當方はまどするときは其

仕譯如何

C、

又右賣捌濟となりたるときはAの場合及びBの場合に於ける仕譯各如何
 總賣上高貳萬參千圓、當方賣捌手数料賣上の2½% 倉敷料廣告料其他諸掛九百圓也

D、

又若し左の如く損失を爲したる場合は如何
 總賣上高壹萬四千圓、當方賣捌手数料賣上の2½% 倉敷料廣告料其他諸掛九百圓也

E、

又右半額を賣捌きたる場合に當て其決算を爲さんとするときは何如に仕譯すべきや

F、

但此賣上高壹萬貳千圓、手数料賣上の2½% 諸入費四百五拾圓也

又若し火災に遭遇し物品悉皆烏有に歸す此場合に當店の記帳法如何

	甲 (積送人)	乙 (積送人)	丙 (當店荷受人)
A	組合品 5333.333	組合品 5333.334	組合品 5333.333
	商品 4000.—	商品 12000.—	全上 987.500
	乙 某 4000.—	甲 某 4000.—	乙 某 4000.—
B	乙 某 1333.334	丙 某 4000.—	甲 某 1333.333
	丙 某 1333.333	甲 某 1333.334	全 金 987.500
	組合品 2666.666	組合品 10666.668	組合品 2666.666
C	商品 4000.—	商品 12000.—	全上 987.500
	乙 某 2000.—	甲 某 2666.666	乙 某 2000.—
	乙 某 2666.666	甲 某 2000.—	甲 某 666.666
D	丙 某 666.666	丙 某 2000.—	金 銀 987.500
	丙 某 6845.833	丙 某 6845.834	組合品 16679.167
	組合品 6845.833	組合品 6845.834	甲 某 6845.833
A			乙 某 6845.834
			損益 1512.500

	甲	乙	丙	組合品	損益
C	丙 某	丙 某	丙 某	組合品	手數料 575.—
	$\frac{16000.—}{6} + 756.250$	$\frac{16000.— \times 2}{3} + 3025.—$	$\frac{16000.— \times 2}{3} + 3025.—$	19345.834	諸掛 900.—
	組合品	組合品	組合品	甲 某 3422.916	
B	丙 某	丙 某	丙 某	組合品	乙 某 13691.663
	$\frac{16000.—}{6} + 756.250$	$\frac{16000.— \times 2}{3} + 3025.—$	$\frac{16000.— \times 2}{3} + 3025.—$	19345.834	損益 756.250
	組合品	組合品	組合品	甲 某 3422.916	手數料 575.—
D	丙 某	丙 某	丙 某	組合品	諸掛 900.—
	$\frac{16000.—}{6} - 706.250$	$\frac{16000.— \times 2}{3} - 2825.—$	$\frac{16000.— \times 2}{3} - 2825.—$	706.250	
	組合品	組合品	組合品	損益 16000.—	甲 某 706.250
A				乙 某 $\frac{16000.— \times 2}{3} - 2825.000$	手數料 350.—
				乙 某 $\frac{16000.— \times 2}{3} - 2825.000$	諸掛 900.—

F. 丙ノ帳簿:

	賣上高	0
立替運賃	987.500	
諸掛	900.—	
手數料		1887.500
	諸掛損	1887.500
	元金	16000.—
	全損失	3) 17887.500
	一人分	5962.500

	組合品	
	5333.333	
	987.500	
損益	5962.500	
甲	629.166	
乙	629.167	
	組合品	6320.833
	諸掛	900.—

二二三

E. 丙ノ帳簿:

	賣上高	12000.—
立替運賃	493.750	
手數料	300.—	
諸入費	450.—	1243.750
	三人分所得金	10756.250
	原價	8000.—
	三人分純益	3) 2756.250
	一人分	918.750

	組合品	
	5333.333	12000.—
	987.500	(残高 $\frac{5333.333}{2} + \frac{987.500}{2}$) 赤記
諸口	8839.58+	

	甲	手數料
		300.—
	$\frac{5333.333}{2} + 918.750$	諸費
		450.—
	乙	損益
	$\frac{5333.334}{2} + 918.750$	918.750

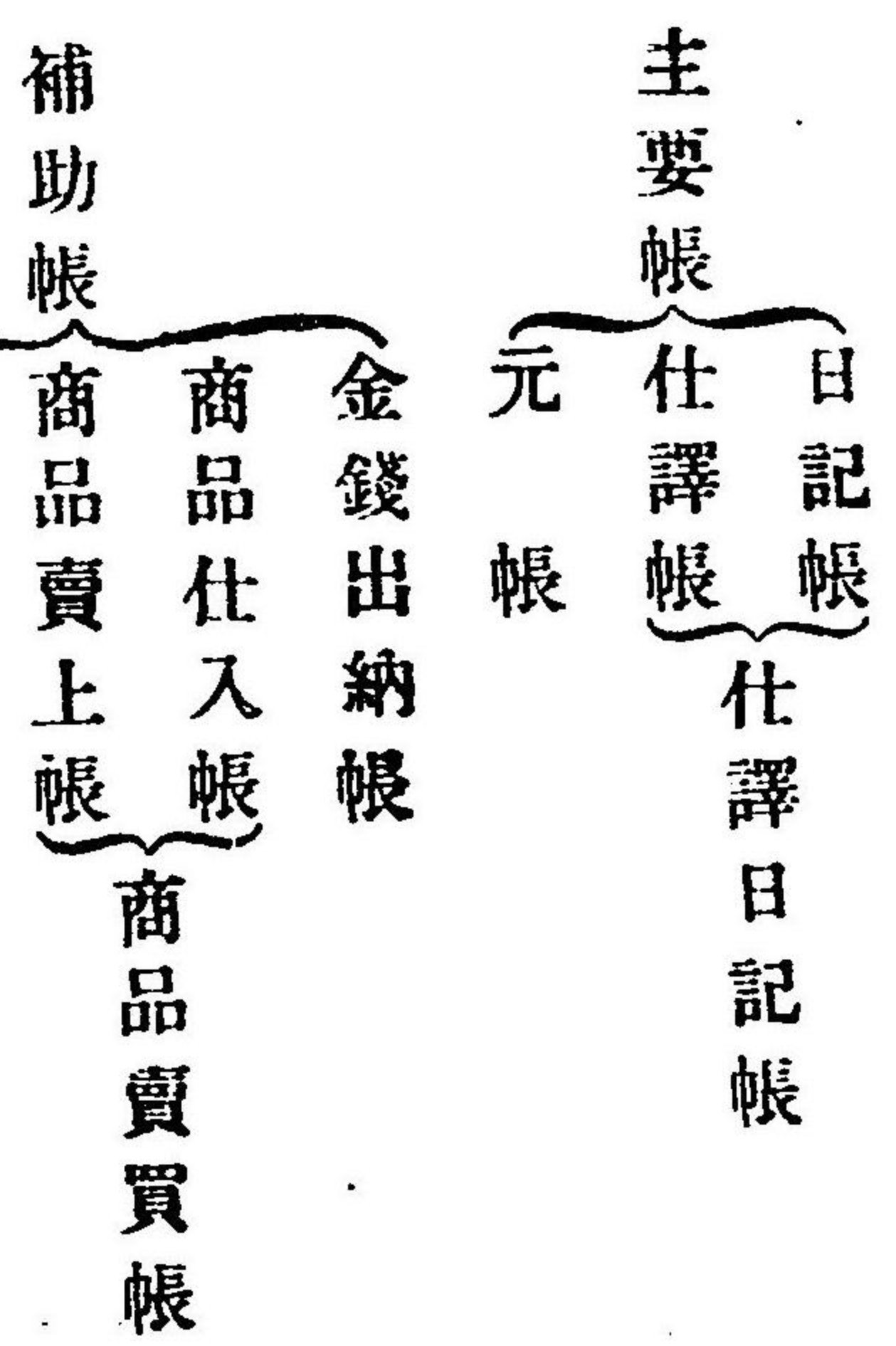
二二二

第三編 第三學期

帳簿の組織及記入式

帳簿の組織は第壹編第五章に於て既に述たるか如く業務の種類規模の大小により千差萬別素より一定ならずと雖も亦其基礎なる可からず今其最も普通なるもの二三を掲げ之に由て記帳の練習をなさん

第一組織



手形張(受取手形記入帳
其他諸帳簿)

補助帳

右に掲ぐる諸帳簿中主要帳は第一學期に於て既に其要を説きたれば更に之を説明せず今や専ら補助簿に屬する各帳簿の要件を講述すべし

金銭出納帳

第一、金○錢○出○納○帳○ Cash Book 此帳簿は現金收支の年月日相手方收支の理由及び其金額等を明細に記録するの用に供するものにして畢竟元帳面現金勘定の詳細を示すものなり其記入の要は現金を受取りたるときは借方に支拂ひたるときは貸方に順次之を記入し差引殘高を一目瞭然たらしむるに在り而して結算を爲すの際其差額を手許有高若くは繰越高として貸方に朱記し而る後貸借雙方を合計して平均を求め更に借方に之を繰越すものとす

商品仕入帳

第二、商○品○仕○入○帳○ Invoice Book 該帳は商品を買入たるとき其買入の年月日相手方品名荷印數量買入の條件價格金額其他風袋減耗割引諸掛り等商品の代價仕拂及び受渡に關する一切の要件を記入するの用に供す

商品賣上帳

第三、商○品○賣○上○帳○ Sales Book 賣上帳は賣捌きたる商品の顛末を記録するもの

手形帳

にして其記入の要件は總て商品仕入帳に同じ

商品仕入帳及び賣上帳は營業の種類によりては之を合併して一簿と爲し貸借に分ち仕入を借に賣上を貸に記入し以て各商品の殘高を知る様に組織する
便利なることあり普通商品賣買帳と呼ぶもの即是なり

第四、手○形○帳○ Bill Book 手形帳は之を受取手形記入帳 Bills Receivable Register 及び仕拂手形記入帳 Bills Payable Register の二簿に分つ受取手形記入帳は爲換手形又は約束手形にして總て當方に受取の權利ある手形を記入するの用に供するものにして其記入の要件は手形の番號種類關係人氏名期限日金額及び仕拂の顛末なり仕拂手形記入帳は總て當方に於て直接に支拂の義務ある手形を記入す其記入の要件は受取手形記入帳と同じ

今や以上諸帳簿の雛形を掲げ併せて其記入式を示さむか爲め茲に例題を設け之に據り諸帳簿の記入を爲さん而して本例題に於ては主要帳中日記帳及び仕譯帳は之を合併して仕譯日記帳を用ゐる元帳も亦新しき雛形を用ゆべし

第一例題

明治三十年七月一日 左の資本を以て商業を営む

一 地面付家屋代金見積 金五千圓也

一 小麥 五百俵 金壹圓八拾錢替

一 燕麥 貳百俵 金九拾錢替

二日 和田耕平より小麥五百俵を抵當となし來る九月二日返濟の約束を以て金四百五拾圓を借用す但し利子年壹割とす

五日 小林和介より左の品買入れ代金として當店振出同店宛本日附六十日限仕拂の約束手形を渡す

一 上麥粉 百桶 金九圓貳拾錢替

一 小麥 貳百俵 金壹圓七拾五錢替

七日 加福力太郎より左の品掛にて買入れ運賃金五圓五拾錢を現金にて仕拂ふ

一 蜀黍 參百俵 金壹圓替

一 上麥粉 六拾桶 金九圓拾五錢替

十日 七海兵吉へ左の通賣渡し代金の内金參百五拾圓は同人振出し當店宛本日附三十日限支拂の約束手形にて受取り殘額を掛とす

一 上麥粉 五拾桶 金九圓五拾錢替

一 蜀黍 七拾俵 金壹圓拾錢替

一 燕麥 百俵 金壹圓替

十二日 高野省三へ左の通掛にて賣渡す
一 小麥 貳百俵 金貳圓替

十四日 去る十日七海兵吉より受取りし手形期日前なれども當店の都合により日歩參錢の割合にて二十六日間の割引をなし殘額を現金にて受取り直ちに銀行へ當座預をなす

○十五日 高野省三より太田文一振出同人宛本月一日附六十日限支拂の約束手形を額面金百五拾圓より日歩參錢の割合にて四十六日間の割引を

爲し残額を掛代金の内拂として受取る

十六日 七海兵吉より掛代金の全額を現金にて受取り直ちに銀行へ當座預とす

十八日 村上長次郎へ左の通現金にて賣渡す

一上麥粉 五拾桶 金九圓四拾錢替

十九日 相澤合資會社より左の通掛にて買入れ運賃金九圓六拾五錢を現金にて仕拂ふ

一上麥粉 貳百五拾桶 金九圓拾五錢替

一小麥 五百俵 金壹圓八拾錢替

二十日 中野觀象へ左の品賣渡し代金の内金壹千圓を小切手にて残額を現金にて受取る但し小切手は直ちに當座預金に振込む

一上麥粉 百參拾桶 金九圓四十七錢替

廿三日 小林和介へ渡したる約束手形期日前なれども同人の望に任せ日歩參錢の割合にて日數四十二日間の割引高を引去り残額を小切手にて

仕拂ふ

二十四日 資本主私用の爲め左の品並に現金八拾五圓を渡す

一上麥粉 貳拾桶 金九圓三拾五錢替

二十八日 加福力太郎より左の品買入れ代金として當店振出し同人宛本日附十日限仕拂の約束手形を渡す

一燕麥 參百俵 金九拾錢替

一蜀黍 五百俵 金壹圓替

一小麥 百俵 金壹圓八拾錢替

三十一日 手代給料其他營業費用金九拾圓及び家事費用金四拾八圓を現金にて支拂ふ

同日 元帳結算を行ふ

但し本例題の元帳結算は大陸法に據る可し即ち總て仕分日記帳を経て元帳の記入をなすものとす仕分日記帳記入の要件左の如し

本月損益左之通

損失之部

本月二日和田耕平よりの借入金四百五拾圓の利子

三十日間分年壹割の割合 此金參圓七拾錢也

營業費 金九拾圓也

家事費 金四拾八圓也

合計 金百四拾壹圓七拾錢也

利益之部

商 品 賣上高 金貳千九百四拾圓拾錢也

賣殘高 金五千四百七拾九圓也

合計 金八千四百拾九圓拾錢也

仕入高 金七千貳百五拾壹圓六拾五錢也

差引利益 金壹千百六拾七圓四拾五錢也

割引料 金拾五圓參拾四錢貳厘也

合計 金千八百八拾貳圓七拾九錢貳厘也

差引純利益資本金勘定振込高 金千〇四拾壹圓〇九錢貳厘也

資産負債來月繰越高左之通

資産之部 不動産 金五千圓也

商品 棚卸高 金五千四百七拾九圓也

現金 手許殘高 金九百拾貳圓九拾五錢也

受取手形 太田文一振出高野省三宛七月一日附六十日限約手

金百五拾圓也

高野省三 掛代金殘 金貳百五拾貳圓〇七錢也

當座預金 某銀行殘 金參百九拾五圓貳拾七錢貳厘也

合計 金壹萬貳千八百八拾九圓二拾九錢貳厘也

負債之部

資本金 現在元入高 金六千八百四拾九圓〇九錢貳厘也

抵當付借入金 債主和田耕平抵當品小麥五百俵

加福力太郎	掛代金	金四百五拾圓也
支拂手形	加福力太郎宛約手七月廿八日附十日限	金七百四拾九圓也
相澤合資會社	掛代金	金九百五拾圓也
未決算勘定	仕拂ふへき借用金利子	金參千百八拾七圓五拾錢也
合計		金參圓七拾錢也
		金壹萬貳千百八拾九圓貳拾九錢貳厘也

仕譯日記帳

仕譯日記帳

明治三十年	摘要	元	借方	貸方
	前日	¥ 8554500		¥ 8554500
7 10	諸口 商品	3		652
	受取手形	8	350	
	七海兵吉	9	302	
	七海兵吉へ左ノ通賣渡ス 上麥粉 五拾桶 金九圓五拾錢替 蜀黍 七拾俵 金壹圓拾錢替			475 77
	燕麥 百俵 金壹圓替			100
	右代金ノ内同人振出當店宛本日附三十日限約手第八號ニテ受取ル			350
	殘金ヲ掛トス			302
" 12	高野省三 商品	10	400	
	高野省三へ左之品掛ニテ賣渡ス 小麥 貳百俵 金貳圓替	3		400
" 14	諸口 受取手形	8		350
	當座預金	11	347	270
	割引料	12	2730	
	去十日七海兵吉ヨリ受取リシ約手日歩參錢ノ割ニテ二十六日間ノ割引ヲナシ殘額ヲ現金ニテ受取リ直チニ何々銀行へ當座預ヲ爲ス			
" 15	受取手形 諸口	8	150	
	高野省三	10		147930
	割引料	12		2070
	高野省三ヨリ太田文一振出同人宛本月一日附六十日限約手第百號額金百五拾圓ノ内ヨリ日歩參錢ノ割ニテ四十六日間ノ割引ヲナシ掛代金ノ内拂トシテ申受ク			
	次へ		¥ 10106500	¥ 10106500

二二七

仕譯日記帳

明治三十年	摘要	元	借方	貸方
7 1	諸口 資本金	1		¥ 6080
	不動産	2	5000	
	商品	3	1080	
	本日左之通資本ヲ以テ營業ヲ始メ			
	地面付家屋代金見積		¥ 5000	
	小麥 百俵 金壹圓八拾錢替			900
	燕麥 貳百俵 金九拾錢替			180
" 2	現金	4	450	
	抵當付借入金	5		450
	和田耕平ヨリ來ル九月二日返済ノ約束ヲ以テ金四百五拾圓ヲ借用ス利子年壹割也 此抵當品 小麥 五百俵			
" 5	商品	3	1270	
	支拂手形	7		1270
	小林和介ヨリ左之通買入レ代金トシテ本日附六十日限同人宛約手第壹號ヲ振出ス 上麥粉 百桶 金九圓貳拾錢替			920
	小麥 貳百俵 金壹圓七拾五錢替			350
" 7	商品 諸口	3	754500	
	加福力太郎	6		749
	現金	4		5500
	加福力太郎ヨリ左ノ品掛ニテ買入ル 蜀黍 參百俵 金壹圓替			300
	上麥粉 六拾桶 金九圓五錢替			549
	右運賃現金拂			5500
	次へ		¥ 8554500	¥ 8554500

二二六

仕譯日記帳

4	明 治 三十一年	摘 要	元 丁	借 方	貸 方
		前ヨリ		¥15306750	¥15306750
723		支拂手形 諸口	7	1270—	
		當座預金	11		1253998
		割引料	12		16002
		小林和助へ渡シタル本月五日附約束手形期日前ナレトモ同人ノ望ニ依リ日歩參錢ノ割ニテ四十二日間ノ割引ヲナシ小切手ニテ仕拂フ			
"24		資本金 諸口	1	272—	
		商 品	3		187—
		現 金	4		85—
		資本主佐野善作私用ノ爲メ左ノ品并ニ現金ヲ渡ス			
		上麥粉 貳拾桶 金九圓參拾五錢替			¥187—
		現 金			85—
"28		商 品	3	950—	
		支拂手形	7		950—
		加福力太郎ヨリ左ノ通買入ル			
		燕麥 參百俵 金九拾錢替			¥270—
		蜀黍 五百俵 金壹圓替			500—
		小麥 百俵 金壹圓八拾錢替			180—
		右代金ニ對シ同人宛本日附十日限支拂ノ約手第貳號ヲ振出ス			
"31		諸 口 現 金	4		138—
		營業費	14	90—	
		家事費	15	48—	
		本月分手代給料其他營業諸入費并ニ家事費用前記ノ通現金ニテ支拂フ			
		次へ		¥17936750	¥17936750

三三九

仕譯日記帳

3	明 治 三十年	摘 要	元 丁	借 方	貸 方
		前ヨリ		¥10106500	¥10106500
716		當座預金	11	302—	
		七海兵吉	9		302—
		七海兵吉ヨリ掛代金現金ニテ受取り直チニ何々銀行へ當座預トナス			
"18		現 金	4	470—	
		商 品	3		470—
		村山長次郎へ左ノ品現金ニテ賣渡ス			
		上麥粉 五拾桶 金九圓四拾錢替			
"19		商 品 諸口	3	3197150	
		相澤合資會社	13		3187500
		現 金	4		9650
		相澤合資會社ヨリ左ノ通掛ニテ買入ル			
		上麥粉 貳百五拾桶 金九圓拾五錢替			¥2287500
		小 麥 五百俵			
		金壹圓八拾錢替			900—
		右運買現金拂			9650
"20		諸 口 商 品	3		1231100
		當座預金	11	1000—	
		現 金	4	231100	
		中野假象へ左ノ品賣渡ス			
		上麥粉 百參拾桶 金九圓四拾七錢替			
		右代金ノ内小切手ニテ受取り直チニ何々銀行へ當座預金トス			
		殘額現金ニテ受取			¥1000—
					231100
		次へ		¥15306750	¥15306750

三三八

仕譯日記帳

6
明治三十年

摘要	元	借方	貸方
前ヨリ	720302	234	720302234
731 資産負債次期繰越左之通			
諸口			
負債之部			
資本金 現在元入高	1	6849092	
抵當付借入金 債主和田耕平期限九月 二日抵當品小麥五百俵	5	450	
加福力太郎 掛代金	6	749	
支拂手形 加福力太郎宛七月廿 日附十日限約手	7	950	
相澤合資會社 掛代金	13	3187500	
未決算勘定 仕拂フヘキ借入金利息	17	3700	
資産之部			
不動産	2		5000
商 品 財産目録之通	3		5479
現 金 手許殘高	4		912950
受取手形 大田文一振出七月一日 附六十日限約手	8		150
高野省三 掛代金殘	10		252070
當座預金 何々銀行預金尻	11		395272
		732491526	732491526

111

仕譯日記帳

明治三十年

5

摘要	元	借方	貸方
前ヨリ	717936750		717936750
731 本日元帳結算ヲ行フ爲メ結算記入ヲ爲ス 損益左之通			
損失之部			
損 益 諸 口	16	141700	
營業費	14		90
家事費	15		48
未決算勘定 和田耕平借入金四百五十拾圓ノ利息 年壹割ニテ三十日分	17		3700
利益之部			
諸 口 損 益	16		1182792
商 品 賣上高			
賣上帳之通	3	1167450	
賣殘高			
財産目録之通		5479	
合計		8419100	
仕入高			
仕入帳ノ通		7251650	
割引料	12	15342	
差引純利益資本金勘定繰込左之通			
損 益	16	1041092	
資本金	1		1041092
次へ	720302234		720302234

1110

現 金 出 納 帳
 商 品 仕 入 帳
 商 品 賣 上 帳

仕 譯 日 記 帳

7

明 治 三 十 年	摘 要	元 子	借 方	貸 方
731	次期=元帖ヲ繰越ス爲メ繰越記入ヲ爲 ス左ノ通			
	諸 口			
	不 動 産	2"	5000—	
	商 品	3"	5479—	
	現 金	4"	912950	
	受 取 手 形	8"	150—	
	高 野 省 三	10"	252070	
	當 座 預 金	11"	395272	
	資 本 金	1		7 6849092
	抵 當 付 借 用 金	5		" 450—
	加 福 力 太 郎	6		" 749—
	支 拂 手 形	7		" 950—
	相 澤 合 資 會 社	13		" 3187500
	未 決 算 勘 定	17		" 3700

仕入帳

明治三十年七月一日

7	1	資本主佐野善作元入之内			
		小 麥 五百俵 金壹圓八拾錢替	¥	900	—
		燕 麥 貳百俵 金九拾錢替	"	180	—
					¥ 1080 —
"	5	小林和助ヨリ買入ル			
		上麥粉 百 桶 金九圓貳拾錢替	¥	920	—
		小 麥 貳百俵 金壹圓七拾五錢替	"	350	—
					¥ 1270 —
		右代金トシテ本日附六十日限同人宛約束 手形第壹號ヲ振出ス			
"	7	加福力太郎ヨリ掛ニテ買入ル			
		蜀 黍 參百俵 金壹圓替	¥	300	—
		上麥粉 六拾桶 金九圓拾五錢替	"	549	—
		右運賃現金ニテ支拂フ	"	5500	—
					¥ 754500
"	19	相澤合資會社ヨリ掛ニテ買入ル			
		上麥粉 貳百五拾桶 金九圓拾四錢替	¥	2287	500
		小 麥 五百俵 金壹圓八拾錢替	"	900	—
		在運賃現金ニテ支拂フ	"	9650	—
					¥ 3197150
"	28	加福力太郎ヨリ買入ル			
		燕 麥 參百俵 金九拾錢替	¥	270	—
		蜀 黍 五百俵 金壹圓替	"	500	—
		小 麥 百 俵 金壹圓八拾錢替	"	180	—
		右代金トシテ同人宛本日附十日限約手第 貳號ヲ振出ス			
					¥ 7251650

現金出納帳

明 治 三十 年	摘 要	収入高	支出高	残 高
7	2 和田耕平ヨリ來ル九月二日 返濟ノ約束ニテ小麥五百 俵ヲ抵當トシ借用金ヲ爲 ス利子年壹割	¥ 450 —		¥ 450 —
"	7 加福力太郎ヨリ買入レタル 商品ノ運賃ヲ支拂フ		¥ 5500	444500
"	18 村山長次郎へ商品ヲ賣渡ス	¥ 470 —		914500
"	19 相澤合資會社ヨリ買入レタ ル商品ノ運賃ヲ支拂フ		¥ 9650	904850
"	20 中野觀象へ賣渡シタル商品 代金ノ内現金受取	¥ 231100		1135950
"	24 資本主私用ノ爲メ渡ス		¥ 85 —	1050950
"	31 營業費手代給料家事費用支 拂フ		¥ 138 —	912950
"	" 繰越		¥ 912950	
		¥ 1151100	¥ 1151100	
7	31 繰越	¥ 912950		¥ 912950

手形記入帳

賣上帳

明治三十年七月十日

710	七海兵吉へ賣渡ス				
	上麥粉 五拾桶 金九圓五拾錢替	?	475	—	
	蜀黍 七拾俵 金壹圓拾錢替	"	77	—	
	燕麥 百俵 金壹圓替	"	100	—	? 652 —
	右代金ノ内同人振出當店宛本日附三十日				
	限約手ニテ受取ル	?	350	—	
	殘金掛	"	302	—	
" 12	高野省三へ掛ニテ賣渡ス				" 400 —
	小麥 貳百俵 金貳圓替				
" 18	村山長次郎へ現金ニテ賣渡ス				" 470 —
	上麥粉 五拾桶 金九圓四拾錢替				
" 20	中野觀象へ賣渡ス				" 1231 100
	上麥粉 百參拾桶 金九圓四拾七錢替				
	右代金ノ内小切手ニテ受取ル	?	1000	—	
	現金ニテ受取ル	"	231	100	
" 24	資本主私用ノ爲メ渡ス				" 187 —
	上麥粉 貳拾桶 金九圓參拾五錢替				? 2940 100

支 拂 手

明 治 三十一年	摘 要	番 號	手形 種類	受 取 人	振 出 人 又 裏 書 人	手形 日 附	期 限
7 5	小林和介ヨリ商品ヲ 買入レ振出ス	1	約	小林和介	當 店	7 5	六十日
" 28	加福力太郎ヨリ商品 ヲ買入振出ス	2	"	加福力太郎	" "	" 28	十 日

受 取 手

明 治 三十一年	摘 要	番 號	手形 種類	支 拂 人	振 出 人 又 裏 書 人	手形 日 附	期 限
7 10	七海兵吉へ商品ヲ賣 渡シ請取ル	8	約	七海兵吉	全 人	7 10	三十日
" 15	高野省三ヨリ掛代金 ノ内へ	100	"	太田文一	高野省三	" 1	六十日

形 帳

満 期 日												支 拂 場 所	額 面 金 額	顛	末
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
								3					¥1270—	7 23	四十二日分割引 ヲ付シ小切手ニテ拂
						7							" 950—		

形 帳

満 期 日												支 拂 場 所	額 面 金 額	顛	末
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
								9					¥ 350—	7 14	二十六日分割引 ニテ代金請取ル
								30					" 150—		

元 精 財
帳 算 產
表 目 錄

結算濟

4 現 金

明治三十年	摘要	仕丁	借方	貸方	貸文借	差高
7 2	抵當付借用金 和田耕平ヨリ借用	1	450		借	450
" 7	商 品 運賃	"		5500	"	444500
" 18	" 品 村山長次	3	470		"	914500
" 19	郎ヨリ品代金 運賃	"		9650	"	904850
" 20	" 中野觀象	"	231100		"	1135950
" 24	ヨリ品代金ノ内 資本主私	4		85	"	1050950
" 31	資本金 資本主私 費用ノ爲メ渡ス			138	"	912950
" 31	諸 事費現金拂 越			912950	"	
" "	手許残高	5				
7 31	繰 越	6	1151100	1151100	借	912950

5 抵當付借用金

明治三十年	摘要	仕丁	借方	貸方	貸文借	差高
7 2	現金 和田耕平ヨリ借抵當小麥五百俵	1		450	貸	450
" 31	繰 越	5	450		"	
7 31	繰 越	6		450	貸	450

6 加福力太郎

明治三十年	摘要	仕丁	借方	貸方	貸文借	差高
7 7	商 品 掛買代金	1		749	貸	749
" 31	繰 越	5	749		"	
7 31	繰 越	6		749	貸	749

7 支拂手形

明治三十年	摘要	仕丁	借方	貸方	貸文借	差高
7 5	商 品 小林和介ヨリ商品ヲ買入約手ヲ渡ス	1		1270	貸	1270
" 23	諸 口 上記約手割引ノ上小切手ニテ仕拂フ	4	1270		"	
" 28	商 品 加福力太郎ヨリ商品ヲ買入約手ヲ渡ス	"		950	貸	950
" 31	繰 越	5	950		"	
7 31	繰 越	6	2220	2220		950

二四三

資 本 金 1

明治三十年	摘要	仕丁	借方	貸方	貸文借	差高
7 1	諸 口 元入高	1		6080	貸	6080
" 24	" 資本主私用ノ爲メ商品及現金ヲ渡ス	4	272		"	5808
" 31	損 益 本月純利益	5		1041092	"	6849092
" "	繰 越	"	6849092		"	
7 31	繰 越	6		77121092	貸	77121092

不 動 産 2

明治三十年	摘要	仕丁	借方	貸方	貸文借	差高
7 1	資 本 金 元入之内	1	5000		借	5000
" 31	繰 越	5		5000	"	
7 31	繰 越	6	5000		借	5000

商 品 3

明治三十年	摘要	仕丁	借方	貸方	貸文借	差高
7 1	資 本 金 元入之内	1	1080		借	1080
" 5	支拂手形 小林和介ヨリ約手ニテ買入	"	1270		"	2350
" 7	諸 口 加福力太郎ヨリ掛買シ運賃現拂	"	754500		"	3104500
" 10	" 七海兵吉へ約手及掛ニテ賣渡	2		652	"	2452500
" 12	高野省三 全人へ掛賣	"		400	"	2052500
" 18	現 金 村山長次郎へ現金賣	3		470	"	1582500
" 19	諸 口 相澤合資會社ヨリ掛買運賃現拂	"	3197150		"	4779650
" 20	" 中野觀象へ現金及小切手ニテ賣渡	"		1231100	"	3548550
" 24	資 本 金 資本主私用ノ爲メ渡ス	4		187	"	3361550
" 28	支拂手形 加福力太郎ヨリ約手ニテ買入	"	950		"	4311550
" 31	損 益 賣掛利益	5	1167450		"	5479
" "	繰 越 賣残高	"		5479	"	
7 31	繰 越	6	8419100	8419100	借	5479

二四二

割引料

明治三十年	摘要	仕丁	借方	貸方	貸方借	差高
714	受取手形 七海兵吉約手 日歩參錢廿六日	2	2730		借	2730
"15	" " 高野省三ヨリ 讓受約手參錢四十六日	"		2070	"	660
"23	支拂手形當店約手日歩 參錢四十二日	4		16002	貸	15342
"31	損益	5	15342			
			18072	18072		

相澤合資會社

明治三十年	摘要	仕丁	借方	貸方	貸方借	差高
719	商 品 掛買代金	3		3187500	貸	3187500
"31	繰越	5	3187500			
731	繰越	6		3187500	貸	3187500

營業費

明治三十年	摘要	仕丁	借方	貸方	貸方借	差高
731	現 金 手代給料其他 雜費	4	90		借	90
" "	損益	5		90		

家事費

明治三十年	摘要	仕丁	借方	貸方	貸方借	差高
731	現 金	4	48		借	48
" "	損益	5		48		

二四五

受取手形

明治三十年	摘要	仕丁	借方	貸方	貸方借	差高
710	商 品 七海兵吉へ賣 渡シタル商品代ノ内約 手	2	350		借	350
"14	諸 口 上記約手割引 ノ上當座預金トナス	"		350		
"15	" " 高野省三ヨリ 掛代金ノ内へ	"	150		借	150
"31	繰越	5		150		
			500	500		
731	繰越	6	150		借	150

七海兵吉

明治三十年	摘要	仕丁	借方	貸方	貸方借	差高
710	商 品 品代金ノ内掛	2	302		借	302
"16	當座預金 掛代金ヲ受取 リ當座預金トス	3		302		

高野省三

明治三十年	摘要	仕丁	借方	貸方	貸方借	差高
712	商 品 掛賣代金	2	400		借	400
"15	受取手形 掛代金内拂ト シテ割引ノ上讓受	"		147930	"	252070
"31	繰越	5		252070		
			400	400		
731	繰越	6	252070		借	252070

當座預金

明治三十年	摘要	仕丁	借方	貸方	貸方借	差高
714	受取手形 七海兵吉約手 割引ノ上預入	2	347270		借	347270
"16	七海兵吉 全人掛代金ヲ 受取り預入	3	302		"	649270
"20	商 品 中野觀象ヨリ 品代金小切手ニテ申受 預入	"	1000		"	1649270
"23	支拂手形 小林和介へ約 手代金割引ノ上支拂フ	4		1253998	"	395272
"31	繰越	5		395272		
			1649270	1649270		
"31	繰越	6	395272		借	395272

二四四

精 算 表

貸 借 對 照 表		資 產 損 益 表		負 債
損 亡 試 算 表		利 益		
借 方	勘 定 科 目	貸 方		
	272— 資 本 金	6080—		
5000—	5000— 不 動 產			
5479—	7251350 商 品	2940100	1167450	
912950	1151100 現 金	238150		
	抵當付借入金	450—	450—	
	加福力太郎	749—	749—	
	1270— 支拂手形	2220—	950—	
150—	50— 受取手形	350—		
	302— 七海兵吉	302—		
252070	400— 高野省三	147930		
395272	1649270 當座預金	153998		
	2730 割引料	19072	15342	
	相澤合資會社	3187500	3187500	
	90— 90— 營 業 費			
	48— 48— 家 事 費			
	3700 損 益		3700	
	17336750 未 決 算 勘 定	17336750		
	1041092 純 利 益		1182792	
	1182792			
	現 在 元 入		6849092	
			12180292	

二四七

明治三十年七月三十一日
佐野善作

損 益

16

明 治 三十 年	摘 要	仕 借 方	貸 方	貸 借	差 高
731	諸 口 損失總計	5 141700		借 141700	
" "	" " 利益總計		1182792	貸 1182792	
" "	資 本 金 純益資本勘	" 1041092			
	定 振込		1182792	1182792	

未 決 算 勘 定

17

明 治 三十 年	摘 要	仕 借 方	貸 方	貸 借	差 高
731	損 益 仕拂ノ可キ借	5	3700	貸 3700	
" "	用 金 利 子	" 3700			
731	繰 越	6	3700	貸 3700	

二四六

第二例題

第一例題に掲げたる雛形に則り帳簿及び諸表を作り其記入を學習すへし
 明治三十年十月一日、左之通資本を以て營業を開始す 勘定科目

- 一 現金 金壹萬圓也 (現金勘定)
- 一 營業家屋及什器代金見積 金五千圓也 (營業家屋及什器)
- 一 倉庫五棟代金見積 金貳千圓也 (倉庫)
- 一 公債証書 金百圓五拾錢替 (公債證書)
- 同 日、本月分諸雜費支拂の爲め用度方へ前渡す 金參千拾五圓也 (公債證書)
- 同 日、第一銀行及び安田銀行と當座勘定を開き左之通預け入る 金參百圓也 (假渡金)
- 同 日、第一銀行 金五千圓也 (第一銀行)
- 安田銀行 金四千圓也 (安田銀行)

財產目錄

摘	要	金額
不動產	地面附家屋 地面百坪 家屋建坪參拾坪	¥ 5000 —
商 品	小麥千百俵 @ ¥1.75	¥2925 —
	燕麥四百俵 @ ¥0.90	" 360 —
	上麥粉百六拾桶 @ ¥9.15	"1464 —
	蜀黍七百參拾俵 @ ¥1.—	" 730 —
現 金	手許殘高 紙幣補助貨取合	" 912 950
受取手形	七月一日附六十日限約手壹葉	" 150 —
高野省三	掛賣代金殘高	" 252 070
當座預金	何々銀行殘高	" 395 272
		¥ 12189 992

明治三十年七月三十一日
 佐野善作

同日、開業費現金にて支拂ふ 金貳百圓也 (開業費)

二日、本城東吉に豫て注文し置きたる荷車拾輛本日出來代金現金にて仕拂ふ 金貳百圓也 (營業家屋及什器)

同日、深川丸市商店より倉庫會社寄託の儘左之通買入れ預り證券を讓受く 但し庫敷料は本日迄相濟

一本穀米 五百俵 四斗二升入 壹圓に付一斗替
一南部改良米 貳百俵 四斗二升入 九升九合替

右代金に對し本日附本月三十日拂同店宛約束手形第壹號を振出す

三日、横濱引取商大平屋八郎より英七番砂糖左之通六十日延にて引取の約定を爲す

一五温車糖J M 五百俵 横濱倉渡(但し關稅濟)九弗替に付
一四温車糖A III X 貳百五十拾俵 全上 八弗八分替
一三温車糖C X 五百俵 全上 八弗替
一呂宋糖アムペラ入上 千五百俵 全上 四弗八分替

一台玉糖I H 千 俵 全上 四弗貳分五厘替

備考—六十日延きは直ちに現品を引取らず只引取の約定を爲し置き向六十日間即ち十二月二日迄に代金引換にて引取るべき契約にして賣主は其間現品を備へ置く可く買主は其期間に悉皆引取るべき義務を負ふものなり故に賣主に於て若し此契約に違背し其物品を他に賣捌きたるときは買主に對して素より其責に任すべく買主に於ても亦其引取の期日を誤るときは賣主に對して其責に任し損害を賠償すべきなり右の如き取引にありては普通商品の賣買とは大に其趣きを異にするか故に簿記に於ても明かに之を區別するを要す即ち引取約定品なる口座と設け引取約定品(借)大平屋八郎(貸)と仕譯して記帳すべし而して延期日内に代金を拂ひ現品を受取りたるときは大平屋八郎(借)現金(貸)と仕譯し同時に引取約定品と商品に振替へ商品(借)引取約定品(貸)と仕譯して記帳すべし斯の如くすれば我手許に在る商引と約定品とを區別するを得るのみならず引取約定品の口座に於て其幾何を引取り幾何の残あるや見るとを得べきなり
輸入砂糖の壹俵は通常一担(和百斤即ち拾六貫)にして横濱倉渡しきは倉庫積入の儘引渡を爲す云ふ意義なり即ち倉庫より出し之を運搬する費用は買主に於て之を負擔すべく又物品の所有權は引渡と同時に全然買主に移

幣するが故に引渡後途中に於て損害を生ずるも賣主は其責任なきなり、
價格の何れ何分替とあるは一に何枚何分と云ひ何圓何拾錢と云ふも
同一なり

四 日、大平屋引取手数料千分七に對し本日附來る三十一日拂同人宛約
手第貳號を振出す

同日、横濱引取約定品の内本日左之通引取る

一五温JM 百五拾俵 九弗替

一三温CX 百五拾俵 八弗替

一臺玉IH 貳百五拾俵 四弗貳分五厘替

右代金に對し左之通小切手を振出し大平屋へ支拂ふ

第一銀行小切手第壹號にて 金貳千圓也

安田銀行小切手第壹號にて 殘額悉皆

五 日、昨日引取砂糖到達中山廻漕店へ右横濱車力解艇積込貸京濱間曳
船運賃保險料東京水揚賃及び倉入賃に對し一俵に付金五錢の割にて現
金にて支拂ふ(商品勘定振込)

同日、上州高崎大黒屋平助へ左之通賣渡す但し當店倉渡

一五温JM 五拾俵 正味七百八拾貫 一貫目に付 參拾六匁替

一三温CX 五拾俵 正味全上 參拾貳匁替

一臺玉IH 百 俵 正味千五百八拾五貫 拾八匁替

右繩掛並荷造費及び佐久間町停車場迄車力賃壹俵に付參錢五厘

右代金の内第三銀行預金手形振出手形にて金千貳百圓を受取り殘額

を掛とす預金手形は直ちに安田銀行當座預金に振込む

備考—價格一貫目に付何匁とあるは古來の慣習を因襲したるものにし
て東京に於ける砂糖取引は今尙之を用ゆ即ち六拾匁を以て壹圓と計算
するなり故に例へば一貫目に付參拾六匁とあるは砂糖壹貫目の價金六
拾錢と云ふとなり物の相場に何匁を用ゆるは常に砂糖のみならず茶、小
間物等亦然り一斤三拾匁の茶は一斤五拾錢なるが如し
本例題の荷造費車力賃は買主の負擔なるが故に商品の價に込めて之を
計算すべし其支拂は用度方に於て之を爲し結算の際用度方の計算書に
據り假渡金と適當の口座に振替ふべし

十日、静岡池谷商店へ左之通賣渡す但し繩掛並等荷造費及び新橋迄車

力賃當店持

- 一五温JM 五拾俵 正味七百七拾八貫 參拾六匁替
- 一三温CX 貳拾五俵 " 參百九拾七貫 參拾貳匁替
- 一臺玉IH 百五拾俵 " 貳千百參拾貫 拾八匁替

右代金の内貳千圓第三十五國立銀行小切手第拾貳號にて受取り殘金現金にて受取る小切手は直ちに第一銀行預金に編入

十二日、兩國風月堂へ左之通現金にて賣渡す

- 一五温JM 拾俵 正味百五拾七貫 參拾六匁五分替
- 一三温CX 五俵 " 七拾九貫 參拾參匁替

同日、横濱引取約定品の内左の通引取る

- 一五温JM 貳百俵 九弗替
- 一四温AIII X 參百俵 八弗八分替
- 一三温CX 貳百俵 八弗替
- 一呂宋玉アムベラ 五百俵 四弗八分替

右代金支拂の爲め左の通り小切手を振出し殘金を來十二月十二日限掛とす

第一銀行小切手第貳號 金壹千五百圓也

安田銀行小切手第貳號 金貳千圓也

十五日、信州松本下條商店の註文に依り中牛馬會社を以て左の通積送る

但し運賃向拂

- 一五温JM 貳拾五俵 參百九拾八貫 參拾六匁參分替

右蕙包並荷造壹俵に付金七錢秋葉原迄車力賃壹俵に付金壹錢

代金は貨物到達次第送金の筈

同日、昨日引取りたる砂糖到着せしに内五温糖凡五俵潮水の爲め流失

す仍て中山廻送店勘定書左之通

砂糖千貳百俵分横濱車力解艇賃京濱間曳船賃保險料水揚賃倉入賃

壹俵に付金五錢也内辨償砂糖五俵代金四拾五圓也

差引殘高 ……………也

右現金にて支拂ふ

二五六

十八日、岡田實に深川倉庫在米賣渡し預り證券を譲渡す

本穀米 五百俵 四斗二升入 九升六合替

右代金の内金貳千圓也本月五日附三十日限全人宛下野商店振出約手にて請取り殘金を現金にて受取る但し約手は直ちに安田銀行にて割引し全行當座預金中に編入す割引日步貳錢五厘日數十七日、

二十日、祖山合名會社へ左の通賣渡す但し當店倉庫渡

一 呂宋玉 貳百俵 四枚九分替

一 五温 J M 百五十拾俵 九枚貳分替

一 四温 A III X 百 俵 九枚替

右代金に對し左の通受入る

横濱正金銀行小切手第貳拾九號 金千圓也

合名會社三井銀行小切手第百〇二號 金千五百圓也

大坂水島商店振出福田商店宛祖山合名會社向本月一日附來月卅日

拂爲手第五拾號

金八百圓也

現金

金貳百〇五圓也

右小切手貳葉第一銀行預金中に編入す

廿五日、村瀬春吉へ來る十二月三十日の期限にて三ヶ月間年壹割の利子を以て貸附金を爲し第一銀行小切手第參號を振出し證人石川岩吉連署の借用金證書を申受く此金千圓也

全日、臺灣大清洋行より臺玉糖貳千俵委託販賣の爲め汽船關東丸にて積送りたる旨案内あり

廿八日、天野商店へ掛にて賣渡す

一 五温 J M 參拾俵 正味四百八拾貫 參拾六匁參分替

一 四温 A III X 參拾俵 ” 全上 參拾五匁替

一 三温 C X 貳拾俵 ” 參百拾八貫 參拾參匁替

三十日、阿部清一に深川在米左の通賣渡し預り證券を裏書譲渡す

一 南部改良米 貳百俵 四斗二升入 九升七合替

二五七

右代金の内金八百圓同人振出當店宛本日附十一月三十日拂約手第七號にて受取り殘額を掛とす

同日、東京火災保險會社に左の通火災保險を附す保險期間本日より滿壹ヶ年也

- 一營業家屋及什器 保險金額五千圓 保險料 百分三
- 一倉庫五棟 全 貳千圓 全 百分二半
- 一倉庫在荷見積 全 四千圓 全上

右保險料合計第一銀行小切手第四號にて支拂ふ
卅一日、本月分用度方支拂左之通

- 一給 料 雇人七名分 金七拾八圓也
- 一店用諸費 金八拾圓也
- 一商 品 荷造車力其他商品諸掛 金拾五圓也
- 一交際費 金參拾圓也
- 一旅 費 金五圓也

金九拾圓也

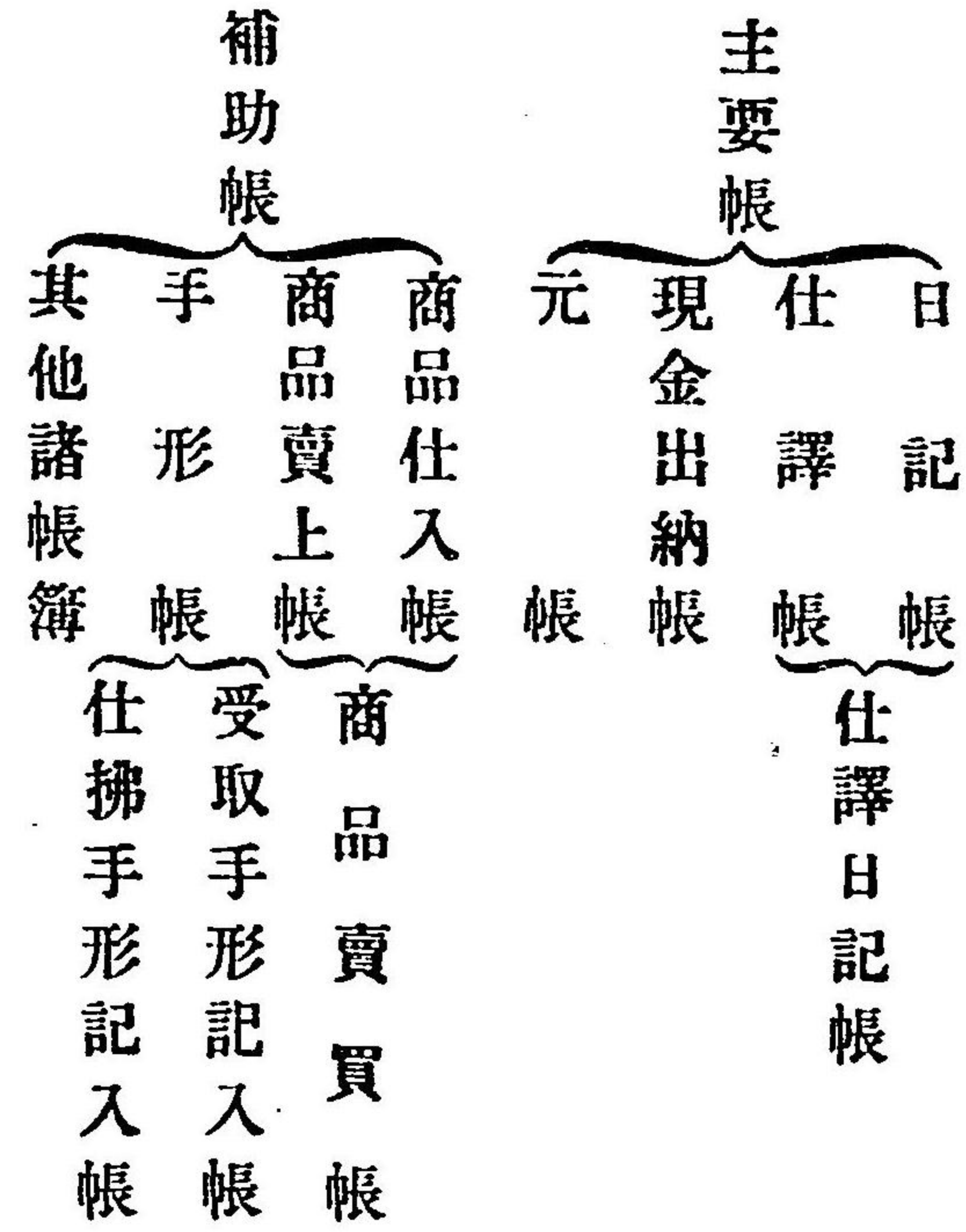
一家事費用

殘金貳圓用度方より返戻せらる

同日、元帳結算を行ふ(財産目録の評価は仮に元價に従ひ計算すべし)

第二組織

二六〇



第二組織の第一組織と異なる所は第一組織に於て補助帳の一たりし現金出納帳を主要帳と爲したるにあり現金出納帳を主要帳中に加へたる時は現金に關する取引は皆此帳簿より元帳に轉記せらるべきを以て日記帳及び仕分帳には一切現金取引を記入するに及ばず若し之を記入するときは二重に元帳に轉記せらるゝの不都合を來すべし

第一組織の差異

今左に問屋を兼ねたる一營業を爲すと假定し其例題を設け以て仕譯日記帳并に現金出納帳の記入式及び是等二帳簿より元帳に轉記せらるゝ法を示さむ補助帳の記帳式は第一組織に掲けたるものと毫も差異なきを以て之を省く但し問屋營業にありては其取扱商品は多く委託品なるか故に商品仕入帳及び商品賣上帳を設くるの外更に委託品荷受帳同賣上帳若くは委託品受賣帳等を要すべきなり

例題

例題

明治三十年十一月一日、左の通資本を以て問屋營業を開始す

- 一 現金 金五萬五千圓也
- 一 第一銀行當座預金 金參萬圓也
- 同日、神戸三井物産會社より左之通賣捌委託を受く
- 三池石炭 五拾萬斤 原價壹萬斤に付 金參拾貳圓替
- 右運賃立替現金にて仕拂ふ 金五百圓也
- 全原價半額に對する荷爲換金第一銀行小切手にて支拂ふ此金八百圓也

- 二 日、砲兵工廠へ左の通納付す
三池石炭(三井物産會社委託品)貳拾萬斤 金四拾五圓替 金九百圓也
此代金受取直ちに第一銀行當座預金に振込む
- 同日、製紙分社へ左の通賣渡す
三池石炭(三井物産會社委託品)貳拾萬斤
金四拾五圓五拾錢替 金九百拾圓也
右代金に對し全社振出本日附十五日限約束手形を受取る
- 三日、神戸山中商店より豫て打合の通り平和商會向當店宛本月二日附
一覽後十日拂爲換手形を振出し平和商會より呈示せられしに依り仕拂
の引受を爲す此金參千圓也
- 四 日、石井組より左の通買入る
越中米 參千俵 此石數千貳百石 壹圓に付一斗替
此代金に對し本日附十五日限約束手形を振出す
- 五日、大坂三井商店へ註文により汽船山城丸に搭載左の通積送る

- 越中米 貳千俵 此石數八百石 壹石に付拾圓貳拾錢替
右運賃諸掛立替現金にて支拂ふ 金五百六拾圓五拾錢也
- 同日、大坂商糖組合資會社より豫て註文し置きたる砂糖左の通汽船大
和丸にて來着す
大島砂糖 五百樽 和七拾五斤入 此量參萬七千五百斤
百斤に付 四圓貳拾錢替
右代金の内金壹千圓に對する荷爲替金當地第三銀行より案内を受け
直ちに第一銀行當座預金引出小切手を以て支拂ふ殘金に對し大坂三
井商店宛一覽後三日目拂の爲替手形を送付す
- 七日、函館佐羽商店より註文せられしに付汽船豐國丸を以て左の通り
積送る、運賃向拂
大島砂糖 貳百樽 和七拾五斤入 百斤に付 四圓八拾錢替
立替諸掛現金にて支拂ふ 金參拾圓也
- 全 日、小樽吉田吉兵衛より左の通り賣捌委託の爲め長久丸を以て積付らる

羽鯨 七束結 八百個

右概算價額六百圓に對する八掛金四百八拾圓を函館佐羽商店宛一覽
后十日拂爲換手形を以て前渡す

十日、長久丸積羽鯨大坂屋惣兵衛へ左の通現金にて賣渡す

羽鯨 七束結 六百個 皆掛 貳千七百六拾五貫八百匁

内 風袋 拾貫目に付參百五拾目 九拾六貫八百匁

差引 正味 貳千六百六拾九貫

拾貫目に付金壹圓九拾五錢替 此金五百貳拾圓四拾五錢

五厘也

十三日、神戸山中商店振出平和商會向爲替手形本日期日に付同商會へ第

一銀行當座預金引出小切手にて支拂ふ

同日、山本商店へ左の通現金にて賣渡す

大島砂糖 參百樽 和七拾五斤入 百斤に付金四圓八拾錢替

十五日、現金貳萬圓を第一銀行當座預金中に振込む

十七日、本月二日附製紙分社振出日附后十五日限約束手形本日期日にて

第一銀行小切手にて受取り直ちに預金に振替をなす

二十日、本月四日附石井組宛當店振出約束手形昨日の處一日遅延せ

しに付額面高の外遅延日歩貳錢壹厘の割にて一日分を加へ合計金壹萬

貳千〇貳圓五拾錢の内金八千五百圓を第一銀行小切手を以て支拂ひ殘

金を現金にて支拂ふ

同日、製紙分社へ賣渡す

三池石炭(三井物産會社委託品)九萬六千斤 金四拾六圓替

右代金の内金參百五拾圓に對し本月九日附卅日限神田商店振出約束

手形を裏書讓受け殘金を掛とす約手は直ちに第一銀行にて割引の上

同行當座預金に編入す但し日歩貳錢一厘の割にて割引日數二十日

廿一日、神戸三井物産會社へ左の通賣上仕切狀を送付す

一金貳千貳百五拾壹圓六拾錢也 三池石炭 正味 四拾九萬六千斤賣上金

内金八百圓也

荷爲替立替金

金五百圓也

立替運賃

金參圓貳拾錢也

荷爲替利子日步貳錢二十日間

金五拾六圓貳拾九錢也

手數料賣揚高の二分半

計金千參百五拾九圓四拾九錢也

差引金八百九拾貳圓拾壹錢也

三井物産會社手取金

右手取金に對し神戸山中商店宛一覽後十日限爲換手形を振出し送付す

廿五日、本月分諸入費現金支拂高左之通

營業費 郵税印税人足賃手代給料手當旅費交際費筆墨其他合計

金貳百拾五圓也

家事費

金九拾五圓也

仕 譯 日 記 帳
現 金 出 納 帳
元 帳

仕譯日記帳

2.

明治三十年	摘要	元	借方	貸方
	前ヨリ	¥ 35,610	—	¥ 35,610
11 4	商品	8	12,000	—
	仕拂手形	7	—	12,000
	石井組ヨリ左之通リ買入ル 越中米 參千俵 千貳百石 壹斗 替 右代金ニ對シ本日附十五日限約束手 形ヲ振出ス			
" 5	三井商店	9	8,160	—
	商品	8	—	8,160
	大坂三井商店へ注文ニ依リ瀧船山城 丸ニ搭載左ノ通積送ル 越中米 貳千俵 八百石 拾圓貳 拾錢替			
" 5	商品 諸口	8	1,575	—
	第一銀行	2	—	1,000
	三井商店	9	—	575
	大坂商糖組合資會社ヨリ豫テ注文シ 置キタル砂糖左ノ通瀧船大和丸ニテ 來着ス 大砂糖 五百樽 和七拾五斤入 參萬七千五百斤 百斤四圓貳拾錢 替 右代金之内金壹千圓ニ對スル荷爲替 金東京第三銀行ヨリ案内ヲ受ケ直チ ニ第一銀行小切手ニテ支拂ヒ殘金ニ 對シ大坂三井商店宛一覽後三日目拂 ノ爲換手形ヲ振出シ送付ス			
" 7	佐羽商店	10	720	—
	商品	8	—	720
	函館佐羽商店ヨリ注文セラレシニ付 瀧船豐國丸ヲ以テ積送ル運賃向拂 大島砂糖 貳百樽 壹萬五千斤 金四圓八拾錢替			
	次へ	¥ 58,065	—	¥ 58,065

二六九

仕譯日記帳

1.

明治三十年	摘要	元	借方	貸方
11 1	第一銀行	2	30,000	—
	資本金	1	—	30,000
	本日元入高ノ内第一銀行當座預金右 ノ通リ			
" "	神戸三井物産會社委託品	3	800	—
	第一銀行	2	—	800
	神戸三井物産會社ヨリ左ノ通賣捌委 托ヲ受ケ 三池石炭 五拾萬斤 原價壹萬斤 ニ付金參拾貳圓替 右原價半額ニ對スル荷爲替金第一銀 行小手ニテ支拂フ			
" 2	第一銀行	2	900	—
	神戸三井物産會社委託品	3	—	900
	砲兵工廠へ左ノ通納付ス 三池石炭 貳拾萬斤 金四拾五圓 替 右代金受取り直チニ第一銀行當座預 金ニ振込ム			
" "	受取手形	5	910	—
	神戸三井物産會社委託品	3	—	910
	製紙分社へ左ノ通賣渡ス 三池石炭 貳拾萬斤 金四拾五圓 五拾錢替 右代金ニ對シ全社振出本日附十五日 限約束手形ヲ受取ル			
" 3	山中商店	6	3,000	—
	支拂手形	7	—	3,000
	神戸山中商店ヨリ豫テ打合セノ通リ 平和商會向ケ當店宛本月二日附一覽 後十日支拂爲換手形ヲ振出シ平和商 會ヨリ呈示セラレシニ依リ之カ支拂 ノ引受ヲ爲ス			
	次へ	¥ 35,610	—	¥ 35,610

二六八

仕譯日記帳

4

明治三十年	摘要	元	借方	貸方
	前ヨリ		70,955	70,955
11 20	諸口 神戸三井物産會社委託品	3		441,600
	第一銀行	2	348,530	
	割引料	13	1,470	
	製紙分社	14	91,600	
	製紙分社へ賣渡ス			
	三池石炭 九萬六千斤 金四拾六圓替			
	右代金ノ内參百五拾圓ニ對シ本月九日附三十日限神田商店振出約束手形ヲ裏書讓受ケ殘金ヲ掛トス約手ハ直チニ第一銀行ニテ割引ノ上同行當座預金ニ編ス此割引日歩貳錢壹厘日數二十日也			
" "	神戸三井物産會社委託品 諸口	3	951,600	
	山中商店	6		892,110
	利子	12		3,200
	手数料	15		56,290
	神戸三井物産會社へ左ノ通賣上仕切書ヲ送付シ全社手取金ニ對シ神戸山中商店宛一覽后十日限爲換手形ヲ振出シ送付ス			
	三池石炭 正味四拾九萬六千斤 賣上金			2251,600
	内			
	荷爲換金			800
	立替運賃			500
	花四圓利子			
	日歩貳錢廿日			3,200
	手数料			
	2½%			56,290
	差引手取金			892,110
			723,482	723,482

二七一

仕譯日記帳

3

明治三十年	摘要	元	借方	貸方
	前ヨリ		58,065	58,065
11 7	小樽吉田吉兵衛委託品	11	480	
	佐羽商店	10		480
	小樽吉田吉兵衛ヨリ左ノ通り賣捌委託ノ爲メ長久丸ヲ以テ積付ラル			
	羽鍊 七束結 八百個			
	右概算價額六百圓ニ對スル八掛金四百八拾圓ヲ函留佐羽商店宛一覽後十日拂爲替手形ヲ以テ前渡ス			
" 13	仕拂手形	7	3,000	
	第一銀行	2		3,000
	神戸山中商店振出平和商會向爲替手形本日期日ニ付同商會へ第一銀行小切手ニテ支拂フ			
" 17	第一銀行	2	910	
	受取手形	5		910
	製紙分社ヨリ本月二日附十五日限全社振出約束手形代金ヲ第一銀行小切手ニテ受取り直チニ全行預金ニ振込			
" 20	仕拂手形	7	8,500	
	第一銀行	2		8,500
	本月四日附石井組宛當店振出約束手形昨日ノ處一日遅延セシニ付額面金壹萬貳千圓ノ外遅延日歩貳錢壹厘ノ割ニテ一日分ヲ加ヘ合計金壹萬貳千〇貳圓五拾貳錢ノ内金八千五百圓ヲ第一銀行小切手ヲ以テ支拂ヒ殘金ヲ現金ニテ支拂フ現金出納帳之通り			
	次へ		70,955	70,955

二七〇

1 資本金							
				11 1	第一銀行	11 730,000	—
				" "	現金	11 55,000	—

2 第一銀行							
11 1	資本金	11 730,000	—	11 1	神戸三井物産 會社委託品	11 800	—
" 2	神戸三井物産 會社委託品	" 900	—	" 5	商 品	" 1,000	—
" 13	現金	" 20,000	—	" 13	仕拂手形	" 3,000	—
" 17	受取手形	" 910	—	" 20	" "	" 8,500	—
" 20	神戸三井物産 會社委託品	" 348	530				

3 神戸三井物産會社委託品							
11 1	第一銀行	11 800	—	11 2	諸 口	11 1810	—
" "	現金	" 500	—	" 20	" "	" 441600	—
" 20	諸 口	" 951	600				

4 現 金							
11 1	資本金	11 55,000	—	11 1	神戸三井物産 會社委託品	11 500	—
" 10	小樽吉田吉兵 衛委託品	" 520	455	" 5	三井商店	" 560	500
" 13	商 品	" 1,080	—	" 7	佐羽商店	" 30	—
				" 15	第一銀行	" 20,000	—
				" 20	諸 口	" 3,502	520
				" 25	" "	" 310	—

現金出納帳

明治三十年	摘要	元	借方	貸方	残高
11 1	資本金 本日元入高ノ内	1	755,000	—	755,000
" "	神戸三井物産會社委託品				
" "	立替運賃現金拂	3	7,500	—	54,500
" 5	三井商店 全店へ積送リ				
" "	ケル越中米運賃諸掛立	9	—	560,500	53,939,500
" "	替支拂フ				
" 7	佐羽商店 全店注文品砂				
" "	糖積出諸掛立替	10	—	30	53,909,500
" 10	小樽吉田吉兵衛委託品				
" "	大坂屋惣兵衛へ左ノ通				
" "	現金ニテ買渡				
" "	羽練七束結六百個皆掛				
" "	2765.800				
" "	内風袋拾貫ニ付參百				
" "	五十匁				
" "	96.800				
" "	差引正味 2669.---				
" "	@1.950	11	520,455	—	54,429,955
" 13	商 品 山本商店へ左ノ				
" "	通現金ニテ買渡ス				
" "	大島砂糖參百匁和七拾	8	1080	—	55,509,955
" "	五斤入金四圓八拾錢替				
" 15	第一銀行 現金ヲ第一銀				
" "	行當座預金ニ振込	2	2,000	—	35,509,955
" 20	諸 口				
" "	仕拂手形 本月四日附				
" "	石井組宛約手代金一				
" "	貳千圓入内現金拂	7	3,500	—	
" "	利子 右退				
" "	延日歩貳錢				
" "	一厘一分				
" "	2.520	12	—	3502,520	32,007,435
" 25	諸 口 本日諸入費現金				
" "	支拂高左ノ通				
" "	營業費 諸口合計				
" "	7 215	16	—	—	
" "	家事費 全上				
" "	95	17	—	310	31,697,435

10		佐羽商店	
11 7	商 品	№2 720	— 11 7 小樽吉田吉兵衛委託品
” ”	現 金	№1 30	—

11		小樽吉田吉兵衛委託品	
11 7	佐羽商店	№3 480	— 11 10 現 金
			№1 520455

12		利 子	
11 20	現 金	№1 2520	— 11 20 神戸三井物産
			№4 3200
			委託品

13		割 引 料	
11 20	神戸三井物産	№4 1470	—
	委託品		

14		製 紙 分 社	
11 20	神戸三井物産	№4 91600	—
	委託品		

二七五

11 2		受 取 手 形		5
神戸三井物産	№1 910	— 11 17 第一銀行	№3 910	—
委託品				

11 3		山 中 商 店		6
仕拂手形	№1 3,000	— 11 20 神戸三井物産	№4 892110	—
			委託品	

11 13		仕 拂 手 形		7
第一銀行	№3 3,000	— 11 3 山中商店	№1 3,000	—
” ”	” ” 8,500	— ” 4 商 品	№2 12,000	—
” ”	現 金	№1 3,500	—	

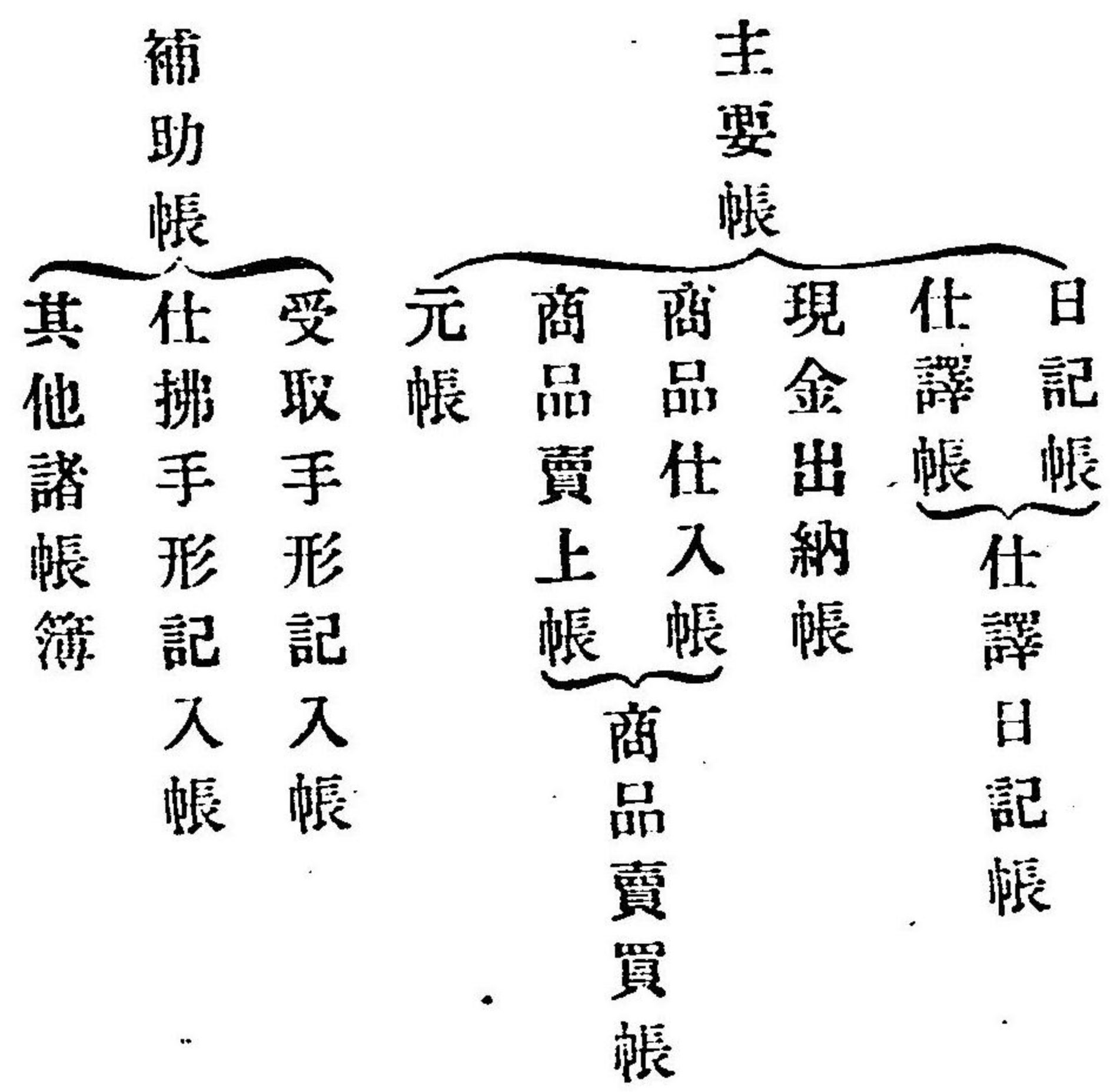
11 4		商 品		8
仕拂手形	№2 12,000	— 11 5 三井商店	№2 8,160	—
” ”	諸 口	” ” 1,575	— ” 7 佐羽商店	” ” 720
			— ” 13 現 金	№1 1,080

11 5		三 井 商 店		9
商 品	№2 8,160	— 11 5 商 品	№2 575	—
” ”	現 金	№1 560,500	—	

二七四

第二組織
との差異

第三組織



第三組織は第二組織の主要簿中更に商品仕入帳及び商品賣上帳の二帳簿を加へたるものにして商品の賣買に關することは之を他の帳簿に記入せず總て是等二帳簿に記入するものとす然れども現金出納帳は其目的元と現金の出納を明かにするに在れば苟も現金の出納に關することは其原因の何たるを論せ

手 數 料

15

1120	神戸三井物産 會社委託品	56290
------	-----------------	-------

營 業 費

16

1125	現 金	215
------	-----	-----

家 事 費

17

1125	現 金	95
------	-----	----

ず皆悉く之を記入するか故に商品の現金取引に限り自然商品買帳及び現金出納帳の雙方に記載せられ雙方より之を元帳に上くるときは二重の轉記とならざるを得ず去れば之を避くるの法を採らざる可からず今左に一例題を設けて之を明にせむ

例題

例題

明治三十年十二月 北海道函館佐野善作、唯井伊八、山口剛藏の三名各金貳千圓宛を出資し資本金六千圓の合名會社を組織し登記公告の手續を了へ營業に着手す

- 一日 佐々木泰助より左の商品を掛にて買入る
- 一 鹽引鮭撰魚五百石 百石に付金七百八拾圓替 代金參千九百圓也
- 同日 有金六千圓の内金四千圓函館銀行へ當座預とす
- 同日 横井時藏より左の商品を現金にて買入る
- 一 鹽引鮭並魚參百石 百石に付金六百圓替 代金九百圓也
- 同日 廣業商會より左の通掛にて買入る

- 一 煎海鼠 拾箱 百斤入壹箱に付金貳拾九圓替 代金貳百九拾圓也
- 一 灰鮑 拾箱 百斤入壹箱に付金四拾圓替 代金四百圓也

同日 和田孝助より左の品買入る

- 一 錫 拾箱壹千斤 百斤に付金貳拾圓替 代金貳百圓也

右代金に對し本日附三十日限和田孝助宛約束手形を振出す

同日 安藤圭助より左之通買入れ函館銀行當座小切手にて仕拂ふ

- 一 長切昆布 貳百石百石に付金參百五拾圓替 代金七百圓也

- 一 元揃昆布 參百石百石に付金四百八拾圓替 代金千四百四拾圓也

同日 清水萬八へ雜費現金にて支拂ふ……………此金八拾圓也

五日 清商福記號へ左の通り現金にて賣渡す

- 一 錫 拾箱 壹千斤百斤に付金貳拾壹圓替 代金貳百拾圓也

同日 英商ジョンソン商會へ左の通賣渡し代金本日附三十日後拂約手にて受取る

- 一 鹽引鮭撰魚五百石 百石に付金八百圓替 代金四千圓也

同日 宮崎久太郎へ左の品賣渡す
 一煎海織 拾箱 百斤入壹箱に付金參拾圓替 代金參百圓也
 一長切昆布 百石 代金參百七拾圓也
 右代金に對し清商東和號派出宮崎向去二日附三十日限約束手形額面
 金八百圓を請取り差引金百參拾圓を現金にて渡す
 同日 岩田合資會社へ左の品現金にて買渡す
 一元揃昆布 參百石百石に付金四百九拾圓替 代金千四百七拾圓也
 同日 桑原大助へ本月三十一日返済利子年壹割五分の約束にて貸付金を
 爲し證人島山久七連署の證書を受く此金五百圓也
 同日 函館銀行へ當座預をなす金千圓也
 同日 佐々木泰助の望に任せ本月一日掛代金に對し同人宛來三十日拂約
 束手形を振出す

仕 譯 日 記 帳
 現 金 出 納 帳
 商 品 仕 入 帳
 商 品 賣 上 帳
 元 帳

仕 譯 日 記 帳

1.

三十年

12 1 佐野善作唯井伊八山口剛藏ノ三名左ノ
通出資ヲ爲シ合名會社ヲ組織シ登記公
告ノ手續ヲ了ヘ營業ニ着手ス

佐野善作	¥2000—
唯井伊八	”2000—
山口剛藏	”2000—
資本總額	¥6000—

” 5 佐々木泰助

87 3900—

仕 拂 手 形

10

¥ 3900—

佐々木泰助ノ望ニ任セ本月一日掛代金
ニ對シ全人宛來ル三十日拂約束手形ヲ
振出ス

現金出納帳

1.	明 治 三十 年	摘 要	元 丁	商 品	諸 口
12	1	佐野善作 出資額	2000—	1	
		唯井伊八 全上	2000—	2	
		山口剛藏 全上	2000—	3	¥ 6000—
		本日現金賣捌高			
		本日収入高		4	¥ 6000—
		前日繰越高			
		總 高			¥ 6000—
12	5	商 品 清商福記號へ賣捌代		210—	
		” ” 商 品 岩田合資會社へ賣捌代		1470—	
		本日現金賣捌高			¥ 1680—
		本日収入高		4	¥ 1680—
		前日繰越高			” 1020—
		總 高			¥ 2700—

現金出納帳

1.	明 治 三十 年	摘 要	元 丁	商 品	諸 口
12	1	當座預金 函館銀行へ	5		¥ 4000—
		” ” 商 品 横井時藏ヨリ買入代金		900—	
		” ” 雜 費 清水萬八へ	7		” 80—
		本日現金仕入高			” 900—
		本日支拂高	4		¥ 4980—
		手許有高			” 1020—
		總 高			¥ 6000—
12	5	受取手形 宮崎久太郎へ商品ヲ賣リ代			
		金六百七拾圓ノ所八百圓ノ手形ヲ			
		受取り差額ヲ現金ニテ渡ス	11		” 130—
		” ” 貸 付 金 桑原大助へ本月三十一日返			
		濟利子年壹割五分ノ約束ニテ貸付			
		夕證人島山久七運署ノ證書ヲ受ク	12		” 500—
		” ” 當座預金 函館銀行へ	5		” 1000—
		本日現金仕入高			
		本日仕拂高	4		¥ 1630—
		手許有高			” 1070—
		總 高			¥ 2700—

商品賣上帳

1.	明治三十年	摘要	元	現金	諸口
12	5	清商福記號 鰯 拾箱 壹千斤 百斤=付 金貳拾壹圓替 此代現金		¥ 210—	
"	"	英商ジョンソン商會 鹽引鮭(撰魚) 五百石 百石=付 金八百圓替 此代受取手形 本日附三十日限 同商會振出約手	11	¥ 4000—	
"	"	宮崎久太郎 煎海鼠 拾箱 壹千斤 百斤=付 金參拾圓替 切長昆布 百石 " 370— 此代受取手形 清商東和號振出 宮崎向去二日附三十日限約手	11	" 670—	
"	"	岩田合資會社 元揃昆布 參百石 百石=付 金四百九拾圓替 此代現金 本日現金賣捌高 本日總賣捌高		" 1470— " 1680— 6 ¥ 6350—	

商品仕入帳

1.	明治三十年	摘要	元	現金	諸口
12	1	佐々本泰助 鹽引鮭(撰魚) 五百石 百石=付 金七百八拾圓替 此代掛	8	¥ 3900—	
"	"	橫井時藏 鹽引鮭(井魚) 參百石 百石=付 金六百圓替 此代現金		¥ 900—	
"	"	廣業商會 煎海鼠 拾箱 百斤入 壹箱=付 金貳拾九圓替 灰 飽 拾箱 百斤入 金四拾圓替 此代掛	9	" 690—	
"	"	和田孝助 鰯 拾箱 壹千斤 百斤=付 金貳拾圓替 此代支拂手形 本日附三十日限 同人宛約手	10	" 200—	
"	"	安藤圭助 長切昆布 貳百石 百石=付 金參百五拾圓替 元揃昆布 參百石 百石=付 金四百八拾圓替 此代當座預金 函館銀行當座小 切手第 號 本日現金仕入高 本日總仕入高	5 6	" 2140— " 900— ¥ 7830—	

6		商 品				
12	1	諸 口	貸 7830	—	借 7830	—
"	5	" "	貸 6350	—	" 1480	—
7		雜 費				
12	1	現 金	貸 80	—	借 80	—
8		佐々木泰助				
12	1	商 品	貸 3900	—	貸 3900	—
"	"	仕拂手形	貸 3900	—	—	—
9		廣 業 商 會				
12	1	商 品	貸 690	—	貸 690	—
10		仕 拂 手 形				
12	1	商 品	貸 200	—	貸 200	—
"	5	佐々木泰助	貸 3900	—	" 4100	—

二八九

		佐 野 善 作				1
12	1	現 金	貸 2000	—	貸 2000	—
		唯 井 伊 八				2
12	1	現 金	貸 2000	—	貸 2000	—
		山 口 剛 藏				3
12	1	現 金	貸 2000	—	貸 2000	—
		現 金				4
12	1	諸 口	貸 6000	—	借 6000	—
"	"	諸 口	" 4980	—	" 1020	—
"	5	商 品	" 1680	—	" 2700	—
"	"	諸 口	" 1630	—	" 1070	—
		當 座 預 金				5
12	1	現 金	貸 4000	—	借 4000	—
"	"	商 品	貸 2140	—	" 1860	—
"	"	現 金	貸 1000	—	" 2860	—

二八八

受取手形							11		
12	5	現	金	金	¥ 130	—	借	¥ 130	—
"	"	商	品	現	"4670	—	"	"4800	—
貸附金							12		
12	5	現	金	金	¥ 500	—	借	¥ 500	—

借吾輩は右に於て複式簿記帳簿組織法の普通なるもの二三を掲けたり學者宜しく其業務の如何に據り彼是取捨折衷して適當なるものを組立れば則ち可なり今や複式簿記を終るに臨み尙二三の帳簿雛形を掲け以て参考に供せむ

六桁仕譯帳

六〇〇〇〇〇〇〇〇六桁仕譯帳は如何なる商業にも適する帳簿にして特に小賣業には最も適切なりとす其体裁は貸借雙方に商品、金銀諸口の三欄宛を設け中央に摘要の欄を置く而して其記入の方法は例へば商品を仕入れ又は金銀を收納したるときは借方の商品又は金銀の欄に其額を記入し商品を賣渡し若くは金銀を支出したるときは貸方の商品又は金銀の欄に其額を登記すべし又金銀商品に非ざる其他の勘定借主となりたるときは之を借方諸口の欄に記入し貸主となりたるときは之を貸方諸口の欄に記すべし斯の如くにして取引毎に順次的記入を爲し月末に至り夫々の欄を合計し更に貸借雙方共各全体の金額を合算して借方の合計と貸方の合計とを突合せ以て正算なるや否を證明するなり

六桁仕譯帳

之を要するに六桁仕譯帳は第三組織に於ける日記仕譯帳、金銀出納帳、賣上帳及び仕入帳の四帳簿を一冊に纏めたるものに過ぎず即ち貸借雙方に於ける金銀の欄は以て金銀出納帳に代るべく借方商品の欄は仕入帳、貸方商品の欄は賣上帳に代用せらるべきなり

又六桁仕譯帳は其貸借双方に於ける商品及び金銀の欄を以て元帳の金銀勘定及び商品勘定に代用するを得べし故に金銀と商品とに關する取引は其都度之を元帳に轉記せずして一週若くは一ヶ月に纏めて一度宛元帳に轉記すれば事足るなり(但し諸口の欄は其都度元帳に轉記す)

右述るか如くなるか故に六桁仕譯帳は頗る便利なるものとす今左に其雜形を示さむ

六桁仕譯帳

明治三十年十二月一日

商 品	金 銀	諸 口	元 子	摘 要	元 子	諸 口	金 銀	商 品
	45000	43000		諸口銀 資本金 金 不動産 右之通元入ヲ爲ス 二 日	78000			
	41425			商 品 山下昇 山下昇ヨリ掛ニテ買入ル 金壹圓八拾錢替 7900 金壹圓七拾五錢替 525 參百樽	71425			
	890			商 品 金 大島清吉ヨリ現金ニテ買入ル 清酒 美人印 百樽 金八圓九拾錢替	890			

金銀出納帳 (現金及當座預金出納帳)

前章所々に掲けたる金銀出納帳は唯現金の出納のみと記載せり茲に掲ぐる所のものは常に現金のみならず當座預金の出納をも併せて記入するの組織なり抑々當座預金なるものは入用次第引出すことを得るものにして商人か銀行に當座預けを爲すは只我金庫にあるものを移して銀行の金庫に入れ置き畢竟金員を藏むる場所を異にするに過ぎず去れば我手許にある現金の出納と共に其出納を一帳簿に記入するは誠に理に適ふことにて金銀に關する全体の出納を明にするには最も適當なる法と謂はざる可からず今左に第一銀行及び正金銀行に當座預金を爲すものと假定し其金銀出納帳の雛形を掲げむ(但し主用簿と示す)

金銀出納帳

借

明治三十年	摘要	元丁	第一銀行	正金銀行	現金
12 1	資本金 元入高		¥5000	¥6500	¥500
" 5	商 品 大塚清三へ資渡ス 關取古米 百石 八外三合替 右代金三井銀行小切手ニテ 受取り第一銀行へ預ケ入ル		"1204820		
" 6	振 替 正金銀行へ		"1000		
" 7	借 用 金 堀内明三郎ヨリ借 用金ヲナス期限來一月三十 一日利子年壹割五分				"1000

備考
— 元帳丁數ノ欄ハ摘要ニ記載セル勘定ノ丁數ヲ記ス
ルモノニシテ第一銀行正金銀行及ヒ現金ノ丁數ハ
之ヲ記載セズ

金銀出納帳

貸

明治三十年	摘要	元丁	第一銀行	正金銀行	現金
12 2	商 品 齊藤次郎ヨリ左ノ 品買入レ第一銀行小切手第 一號ニテ仕拂 關取古米 參百石 八外五 合替		¥3529412		
" 3	營業費 時事新報社へ廣告 料現金ニテ支拂フ				¥50
" 5	不 動 産 清水愛吉ヨリ宅地 百坪(横濱南中通百番地)ヲ 買入レ代金正金銀行小切手 第一號ニテ支拂フ			¥3000	
" 6	株 券 西村喜之助ヨリ買 入ル 日本郵船株 貳拾株 金五 拾七圓替 右代金正金小切手第二號ニ テ支拂フ			"1140	
" "	振 替 第一銀行へ			"1000	
" 7	商 品 澁澤商店ヨリ買入 ル 本穀米 貳百石 九外貳合替 右代金第一銀行小切手第二 號ニテ支拂フ		"2179130		

商品賣買帳

商品買買帳は商品仕入帳及び商品賣上帳を合併したるものにして一口の商品に付き一座宛を設け之を貸借二方に分ち借方には仕入れたる價諸掛等一切商品の原價を爲すものを記入し貸方には賣價及び賣捌諸掛を記入す而して借方の金額は總て之を合計し貸方の金額は賣價より賣捌諸掛を差引き以て貸借雙方を比較し其商品の損益を明にするものとす

此商品買買帳は卸賣商業には適切なれども小賣商業には用ゆべからず其理由は卸賣業にありては一口に多額の商品を仕入れ之を賣捌くに當りても亦大なる分量を以てするが故に各賣買品一口宛口座を設け其損益を計算することを得れども小賣業にありては仕入の際は其取引稍々大なる分量を以てするも之を賣捌くときは極めて小量を以てするが故に各賣買品に付一口宛口座を設くるも其借方の記入は僅に一行か二行なるに貸方の記入は數頁を要すべく隨て經濟と便利を失ふことなればなり

單式簿記

單式簿記

單式簿記

複式と異なる要點

單式 Single Entry と稱する簿記法は複式に比すれば其記帳法單純にして小賣商業には特に適切なるの故を以て世間に用ゐらるゝこと却て複式より多し今單複二式の相異なる要點を擧れば左の如し

第一、複式は取引毎に貸借双方の記入を要すれども單式は然らずして單に一方の記入を爲すのみ

第二、複式にありては其元帳面に種々の勘定口座を開き如何なる取引にても其科目を分ち之に記入すれども單式の元帳は唯人名勘定のみにして人名に關する貸借の外は一切之を記入せず

右の如くなるが故に複式の元帳にありては身代の全況即ち萬般の資産負債及び損益の高を知ることを得べきも單式の元帳に於ては唯人名勘定に就ての資産負債を示すに止まり事業の損益の如きは彼是諸帳簿の記入を拾收して始めて其高を知るを得るのみにて其因て來る所を明にすること能はず又複式は

單式簿記の帳簿

日記帳

元帳

詳細に帳簿記入の正否を證明することを得べきも單式に於ては容易に之を爲すこと能はず依是觀之單式簿記は無論複式に比して不完全なるを免れざるなり然れども小賣商業にありては其取引最も複雑にして複式に依るときは其記入特に煩はしく到底實行し能はざるものあるが故に理論上に於ては完全なるも實際上に於ては單式簿記の簡單にして便利なるに如かざるが如し

單式簿記に必要な帳簿は通例日記帳、元帳、金錢出納帳、手形帳等にして其他結算の際身代の全況を記載すべき残高表等なり以下順次其要を述へむ

第一、日記帳 Day Book 單式の日記帳は元帳登記に資すべき唯一の帳簿にして主として人名貸借掛買掛等に關する取引を記入し其他の事は一切之を記載せず即ち人に貸を生したる場合之が支拂を受けたる場合、人に債を負ひたる場合及ひ之か支拂を爲したる場合に記入せらるゝのみ

第二、元帳 Ledger 前にも述べたる如く單式の元帳は單に人名勘定の各口座を設くるのみ即ち日記帳より日々登記せらるゝものにして人より債を負ひたる場合若くは我貸の辨濟を受けたる場合には其貸方に記入し人に貸を生

したる場合若くは負債を辨済したる場合には其借方に記入するものなり而して結算の際其各口座の差を算出し之を残高表に轉記して以て其目的を達するものとす

金銭出納帳

第三、金銭出納帳 Cash Book 金銭出納帳は日々の金銭出納を記入するものにして其主たる目的は手許残高を明知するに在り此帳簿に登記せらるゝものにして同時に日記帳に記入せらるべきものは唯人名勘定に關する金銭の收支取引あるのみ而して此帳簿は即ち現金勘定の用を爲すものなるが故に結算の際は其手許在高を以て残高表記入に資せざる可からず

手形帳

第四、手形帳 Bill Book 單式簿記の手形帳亦分つて受取手形帳及び仕拂手形帳の二と爲す手形帳に記載せらるゝものにして同時に日記帳に記入せらるべきものは唯人名勘定に關係を有するものゝみ即ち既に元帳口座の借方に記載したる當方の貸に對し受取手形を申受けたる場合及び元帳口座の貸方に記載したる當方の負債に對し仕拂手形を生したる場合はなり

手形の代金を支拂ひ若くは受取りたるときは金銭出納帳に記入せらるゝと

残高表

同時に手形帳に其旨を記載すべきや勿論なり然れども是等の取引は人名勘定と直接に何等の關係を有せざるが故に日記帳にも元帳にも記入せらるべきものに非ざるなり

受取手形及び仕拂手形の未済高は結算の際各手形帳より残高表に登記せらるべきものとす

第五、残高表 Balance Sheet 残高表とは身代の全況を記載する資産負債表にして結算の際作成する所のものなり

此表に記入すべきものは元帳各口座の残高商品棚卸表に記載せる賣殘商品所有不動産及び什器現金出納帳の残額たる手許有高手形帳の残額たる未済手形及び最初元入資本金等總て資産及び負債を成すものにして其資産に屬するものは之を借方に記入し負債に屬するものは之を貸方に記入す而して其貸借の金額を比較して借方貸方に超過すれば純利益を示し貸方借方より多ければ純損亡を示すものとす

借		貸	
金		金	
出		納	
帳		帳	
明治三十年七月			
7	1	現金元入高	3500
"	"	本日現金売上高	40
"	"	"	30
8	"	"	90
14	"	戸塚嘉吉ヨリ掛買代金受取ル	200
"	"	本日現金売上高	130
21	"	"	30
31	"	"	150
		7	4170
7	2	什器買入代金支拂ヲ	300
"	10	雑費	40
"	14	紅屋九藏へ掛買代金支拂ヲ	1000
"	"	給料	30
"	23	家賃費用	50
"	31	柴田健次へ掛買代金支拂ヲ	20
"	"	来月へ繰越——手許有高	2730
		7	4170

1		元丁帳數	
日記帳		明治三十年七月	
1	五日	甲谷商店(貸)ヨリ買入ル 莫大小半袖肌着百五拾打 壹打ニ付金參圓替	450
2	同日	別子合名會社(貸)ヨリ買入ル 化粧石鹼 ダイヤモンド印 六拾打 金五拾錢替 30— 全 軍艦印 六拾打 金壹圓替 " 60— 洗濯石鹼 壹號 貳拾本入 百箱 金八拾錢替 " 80—	170
3	六日	戸塚嘉吉(借)へ賣渡ス 莫大小半袖肌着 五拾打 金參圓貳拾錢替 160— 化粧石鹼 ダイヤモンド 貳拾打 金五拾五錢替 " 11— 全 軍艦印 貳拾五打 金壹圓拾六錢替 " 29—	200
4	七日	須田健次(借)へ賣渡ス 化粧石鹼 ダイヤモンド 貳打 金六拾錢替 1.200— 莫大小半袖肌着 半打 金四圓替 " 2—	3200
2	同日	別子合名會社(貸)ヨリ買入ル 大王印齒磨箱入 五百個 拾個ニ付金貳拾錢替 10— 全 袋入 千個 金拾五錢替 " 15—	25
5	十日	紅屋九藏(貸)ヨリ買入ル 舶來香水取合 百打 金五圓替 500— 和製香水取合 百打 金貳圓替 " 200— 全 香油取合 百打 金參圓替 " 300—	1000
		次へ	1848
			200

3

元丁帳數	日記帳	明治三十年七月
	前ヨリ	¥ 3106 900
	三十日	
11	下野直三(借)へ賣渡ス	
	洗濯石鹼一號 貳拾本入 壹箱	¥ 1.—
	和製香水花魁印 半打	" 1.500 "
		2500
		¥ 3109 400

三二一

2

元丁帳數	日記帳	明治三十年七月
	前ヨリ	¥ 1848 200
	十四日	
3	戸塚嘉吉(貸)ヨリ本月六日掛賣代金受取ル	" 200 —
	同日	
5	紅屋九藏(借)へ本月十日掛代金支拂フ	" 1000 —
	十五日	
6	柴田健次(貸)ヨリ買入ル	
	大坂製角齒アラシ三十段 四拾打 金五拾錢替	" 20 —
	二十日	
7	石川岩吉(借)へ賣渡ス	
	莫大小半袖肌着 壹打 金四圓替	¥ 4.—
	大王印齒磨箱入 拾個	" .300
	角齒アラシ三十段 壹打	" .700 "
		5 —
	二十三日	
6	柴田健次(借)へ本月十五日掛買代金支拂フ	" 20 —
	二十五日	
8	村瀬夏雄(借)へ賣渡ス	
	舶來香水ルビン 半打	¥ 3.600
	和製香油ヤマト 半打	" 1.600 "
		5200
	同日	
9	水島鐵之助(借)へ賣渡ス	
	舶來香水ムンヘー 壹打	" 6 —
	三十日	
10	祖山鐘吉(借)へ賣渡ス	
	化粧石鹼軍艦印 貳打 金壹圓貳拾五錢替	" 2500
		2500
	次へ	¥ 3106 900

三二〇

6 柴田健次

三十二年	723	現金	2	20	—	三十二年	715	角アラン	2	20	—
------	-----	----	---	----	---	------	-----	------	---	----	---

7 石川岩吉

720	肌着齒磨角 アラン	2	5	—							
-----	--------------	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--

8 村瀬夏雄

725	香水香油	2	5	200							
-----	------	---	---	-----	--	--	--	--	--	--	--

9 水島鐵之助

725	香水	2	6	—							
-----	----	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--

10 祖山鐘吉

730	化粧石鹼	2	2	500							
-----	------	---	---	-----	--	--	--	--	--	--	--

11 下野直三

730	洗濯石鹼香水	3	2	500							
-----	--------	---	---	-----	--	--	--	--	--	--	--

三三三

元 帳

甲谷商店 1

三十二年	7	5	莫大小半袖肌 着	1	450	—
------	---	---	-------------	---	-----	---

別子合名會社 2

7	5	石鹼三口取合	1	170	—
"	7	齒磨二口取合	"	25	—

戸塚嘉吉 3

7	6	肌着石鹼取合	1	200	—
7	14	現金	2	900	—

須田鐘次 4

7	7	石鹼及ヒ肌着	1	3	200	—
---	---	--------	---	---	-----	---

紅屋九藏 5

7	14	現金	2	1000	—
7	10	香水香油取合	1	1000	—

三三三

殘高表

三二四

資 産 明三十年七月三十一日 負 債

資 産	金額	負 債	金額
貸 殘 商 品	1100	最 初 元 入	3500
什 器	300	甲 谷 商 店	450
須 田 鐘 次	3200	別 子 合 名 會 社	195
石 川 岩 吉	5	本 月 分 純 益	9460
村 瀬 夙 雄	5200		
水 島 鐵 之 助	6		
祖 山 鐘 吉	2500		
下 野 直 三	2500		
手 許 有 金	2730		
金 銀 出 納 帳 之 通	4154400		4154400
期 卸 表 之 通			
貸 掛 代 金			
掛 買 代 金			

單複變換

單複變換

右の如く殘高表即ち資産負債表を作りたる以上は單記式を複記式に變更すること極めて容易なることを發見すべし即ち該表中最初元入の額と純利益とを合算して現在資本と爲し人名勘定を除き都ての資産と負債とを把りて仕譯帳を経て從來の單記元帳に新たに夫々の口座を設けて之か轉記を爲すなり斯の如くすれば單記の元帳は忽ち複記の元帳と變し爾來複式を以て各簿冊の記入を爲せば則ち純然たる複式簿記と爲るべし

商業簿記教科書終

明治三十年八月廿一日印刷
明治三十年八月廿五日發行

正價金九拾錢

著者

佐野善作

印發行兼

森山章之丞
東京市神田區通新石町二番地

印刷所

熊田活版所
東京市神田區錦町三丁目二十五番地

發兌

同文館
東京市神田區通新石町二番地

關西大

吉岡平助
大阪市東區備後町四丁目五十八番邸



所有

商業五大新著

商業學校教科用書

- 高等商業學校教官 佐野善作先生著
●商業簿記教科書 全一冊 正價金九十錢
- 高等商業學校教授 石川巖先生著
●重要商品誌 (九月發行) 全一冊 正價金四十六錢
- 高等商業學校教授 祖山鐘三先生著
●內外通商案内 (十月發行) 全一冊 正價金四十六錢
- 高等商業學校教授 水島鏡也先生著
●銀行及金融 (十一月發行) 全一冊 正價金四十六錢
- 高等商業學校講師 村瀬春雄先生著
●海運及保險 (十二月發行) 全一冊 正價金四十六錢

●五大新著に引續き他學科逐次刊行仕候

發兌 東京 同文館

PRACTICAL
BOOK-KEEPING

ADAPTED TO

LIFE ASSURANCE AND SHIPPING BUSINESS

AND

THE "COST BOOK" SYSTEM FOR MINES, ETC

BY

F. HAYNE CARTER.

24/2/27

CHAPTER I.

LIFE ASSURANCE COMPANIES' BOOKS.

It is neither the Author's object nor intention to enter very particularly into what is styled "the importance of Life Assurance," as this is well understood by the community, and has been most ably treated by a score of writers. The subject is exhausted, so far as the principle is concerned; its advantages have been presented in every light and every form; appeals have been made to infants, to adults, to middle life, and to old age; husbands are constantly entreated to consider their dependent partners and unprovided offspring; wives urged to economise out of the *res angusta domi*, so that the essential *annual premium* be forthcoming; guardians inundated with reports and prospectuses, and men of a particular age, untrammelled with incumbrances, are initiated into the mysteries of Life Assurance, and made to waste much precious time in ascertaining the best office in which they can sink their money, or, in other words, purchase an annuity.

A few remarks, however, explanatory of the classes into which Insurance Companies are divided, and the different kinds of transactions that they facilitate, may be interesting to those who have not yet paid attention to the subject.

There are three classes of offices:—1st. PROPRIETARY OFFICES, in which the whole realised profits are divided among the stockholders, and the assured are relieved from all risk; 2d. MUTUAL OFFICES, in which the insured bear the whole risk, and are entitled to the whole profits; and 3d. MIXED PROPRIETARY or PARTICIPATION OFFICES where there is a body of responsible proprietors, but the profits are divided in certain proportions between the stock and policy holders.

As each and all have their merits, and are more or less attractive to insurers, it would be invidious to recommend any particular class, but a quotation from Mr. G. M. Bell's work on the subject may not

be inappropriate. He says, "We need scarcely remind the reader that security against loss is the first object to be aimed at in effecting an insurance of any kind; that profit is a secondary consideration in the matter of insurance, and that that company, therefore, is the most eligible, as far as insuring goes, which to a large capital adds a system of judicious and well-tested management."

The advantages of Life Assurance are too numerous to be here detailed, but the legal and commercial worlds reap the most important benefits from the opportunity it offers for carrying out transactions which, without it, would be impracticable. For example, we may adduce the following cases, where the most important objects in life are facilitated:—

The providing for one's family by settlement, of which a Life Assurance Policy may form the principal, if not the only feature.

The giving security for loans, or to *cautioners on a cash-credit*, and in assuring to trustees, guardians, or even parents, the repayment of outlay or advance, for their wards or children, in the event of premature death.

The securing payment of debts.

The enabling landed proprietors, under entailed restrictions, to purchase up life interests or burdens of junior members of the family.

The furnishing means, in situations of trust, where a regular guarantee may not be required, of depositing, by assignation or otherwise, a policy in security for intrusions.

This last example is, of course, attended with specialties, such as an undertaking to re-assign, &c., but it is here referred to merely to show the peculiar advantages possessed by Life Assurance in cases where its utility might never have been contemplated.

An immense variety of examples might be given, illustrative of the benefits to be derived from Life Assurance, but neither will space admit nor is it essential to the matter in hand. Before proceeding, however, to the system of books, the author would quote a paragraph from the prospectus of an old established Scotch company, showing the absurdity of the too common idea that individuals can accumulate their income with the same advantages as those possessed by Insurance Companies; "It is an erroneous view of the subject, although common, to suppose that, instead of disposing periodically of a small surplus, by paying it to an Assurance Company, it would be equally advantageous for an individual to lay it aside for his own behoof.

The contingency of sudden death, the difficulty of finding investments, and the length of the time that must necessarily elapse before any considerable amount can be accumulated, render such an attempt to make provision for a family full of anxiety, and all but hopeless; whereas, by assuring his life, he is *from that moment* secured in the benefit of a sum as large, and perhaps larger than he could have accumulated in a long life. Suppose, for example, a person aged 27, possessing an income of £200 per annum, were to lay aside annually £20, and carefully improve it, *even at 4 per cent. compound interest*; at the end of fifteen years he would find himself possessed of £400; whereas, by insuring his life, the same payment would have secured £1000, and that from *the payment of the first premium of £20.*"

There is still a wide field open for Life Assurance; it is as yet in its infancy, and millions of our fellows remain uninsured. It is satisfactory, however, to know that the short-sighted policy which would throw obstacles in the way of rising institutions, with the expectation of increasing the business and swelling the revenues of old offices, is now beginning to give way; for it is an undoubted fact, that every new office, when based upon sound principles, in no way detracts from the profit of others, but, on the contrary, tends greatly to the advantage and prosperity of Assurance Institutions in general, in more widely disseminating the principles and advantages of Life Assurance, by which they one and all derive a benefit.

All this has been most ably advanced in many pamphlets, and duly disseminated through countless channels; but as yet no treatise has appeared upon the Book-keeping of Life Assurance Companies—no *vaude mecum* for Assurance Book-keepers—no recognised and approved system of books published for the benefit of young offices and the encouragement and guidance of actuaries, who, however talented and conversant with figuring and calculation, may be at a loss perhaps for styles and systems in Book-keeping.

To old established offices, possessing long-tried, although in some cases rather cumbersome systems, there is no desire to suggest any change; but to younger offices, or to any companies that may yet be started, it may be advantageous to consult a manual which gives a concise yet sufficiently explanatory system of Book-keeping, not founded on theory alone, but which has stood the test of many years in an existing office. To the simplicity, and at the same time comprehensiveness of this system, the author can bear testimony, having himself been practically conversant with its working, and fully assured of its completeness.

The Set of Books for a Life Office may be classed under two heads:—

1. PRINCIPAL BOOKS, for direct transactions at the Head Office
2. SUBSIDIARY BOOKS, for Agency business.

The first class comprehends—

1. REGISTER OF RECEIPTS.
2. DAILY CASH BOOK.
3. GENERAL CASH BOOK.
4. PRINCIPAL JOURNAL.
5. GENERAL LEDGER.
6. INVESTMENT LEDGER.
7. REGISTER OF POLICIES.

The second class is represented by—

8. AGENTS' MEMORANDUM BOOKS.
9. AGENTS' DEBIT JOURNAL.
10. AGENTS' CREDIT JOURNAL.
11. AGENTS' LEDGER, AND CONTINUATION BOOKS.

1. REGISTER OF RECEIPTS.—In this Register are entered all sums falling due in every month during the course of the year, in the order of dates on which they are payable; and embrace Renewal Premiums, New Premiums, Interest, Dividends on Stock, Annuities, &c.

2. DAILY CASH BOOK.—This book needs no description. The simpler the form the better, but every entry should have a corresponding heading in the Ledger, to which it is posted from the General Cash Book. A column for Bank transactions is also recommended.

3. GENERAL CASH BOOK.—This is simply kept for the classification of entries contained in the Daily Cash, and which are posted direct from this to the General Ledger.

4. PRINCIPAL JOURNAL.—Although the principle upon which this book is kept has been particularly explained in former chapters, to make the present system complete in itself, as applied to Life Assurance business, a further description is now given. The Journal is made up from the Register of Receipts, in which, as before described, the sums receivable during the month are detailed under distinct heads. But it is only with the summations of these classified receipts that we have to deal in journalizing, and the entries are very simple. For instance "HEAD OFFICE PREMIUMS" are debited with the amount falling due under that head in the month in question, and the counter-balance is preserved by crediting PREMIUMS A and PREMIUMS B for their respective amounts, as embraced therein, A and B being the classification under which they are recognised in the Ledger, and

denoting their participation or non-participation in the profits of the Company. "ANNUITIES RECEIVABLE," "SELF-REDEEMING ANNUITIES DUE," "HERITABLE INTERESTS DUE, and "DIVIDENDS ON STOCK DUE," are then debited with the gross amounts appearing under their respective heads in the Register. All these debits having been made in the JOURNAL, the counter entry must be made, which is a simple credit of the whole amounts to "Interest Account," thus exhausting the REGISTER OF RECEIPTS, and completing the double entry.

The several accounts having been thus debited with the monthly amounts falling due, the relative Credits are carried out from another channel, namely, the ABSTRACT CASH BOOK, whence the sums actually received for premiums, self-redeeming annuities, heritable interests, and dividends on stocks, are posted to their respective accounts; and should there be a difference or balance thereon, it must necessarily arise either from sums in arrear, or from premiums dropt, which are written off by a cross entry to the debit of PREMIUMS A and B, and to the credit of "HEAD OFFICE PREMIUMS."

The remainder of the principal books require no particular description, as they are of the form in common use, and speak for themselves. To proceed, therefore, with an explanation of the system, we will now take the transactions with the agencies. The AGENTS' DEBIT JOURNAL supplies the place of the Register of Receipts in affording materials for the Principal Journal. The agents are debited with the total sums as detailed in their DEBIT JOURNAL, these sums embracing A and B PREMIUMS, INTERESTS, ANNUITIES, and SUNDRY CHARGES, which accounts are in their turn respectively credited with the same.

Thus it will be observed that the whole working of the establishment is concentrated in the principal JOURNAL, and the only thing required to render the system of books complete, is the cross entry at the end of each month of "Cash Dr. to Sundries," and vice versa, to act as a check upon the annual balance.

A writer on this subject (unpublished) explains the utility of this apparently superfluous entry thus:—"By taking the balances on the Ledger at the end of one year, and adding the total summations in the Journal for the following year, it will give what ought to be the balance at the latter date. This arises from all sums falling due being debited and also credited in the Journal, and the cash requires to be brought through the same way, in order that it may correspond with the sums posted to the Debtor and Creditor sides of the Ledger. But I should consider that its utility is best developed, in operating

as a very efficient check upon the posting to the Ledger, from both Journal and Cash Books, and also upon the summation of Journal columns; and enables us at once, by a comparison, to detect any error that may have occurred during the year, and operates very favourably in facilitating its correction."

It is almost superfluous to add, that the GENERAL LEDGER, on receiving the whole contents of the PRINCIPAL JOURNAL and ABSTRACT CASH BOOK distributed throughout, becomes the sole depository of the Company's transactions, showing on its credit side the source from whence the funds have been derived, and on its debit side, the manner in which those means have been applied.

The foregoing directions may be considered sufficiently explicit without further illustration, as a set of books for a Life Assurance business would occupy too large a space in such a work as this. Simplicity in the style of returns for the inspection and information of the Directors is, however, a great point to be aimed at, more especially when investment at critical periods is of vital importance. Elaborate statements are calculated to defeat the object of making Boards acquainted with the position of affairs; so that the office-bearers of Insurance Companies should study the easiest methods of making their current operations intelligible—above all, the Cash transactions upon which any accumulation may arise:

The following style of an "Abstract of Cash," for the guidance of a Board of Directors, gives a very simple analysis of the working of a Company.

ABSTRACT OF CASH BOOK.		JANUARY 1875.	
1874, Dec. 31	To Balances due by Banks, . . .	£ 5,360	d. " " 8
1875, Jan. 31	" Premiums received (Head Office).	3,120	6 8
	" Agents' Remittances,	2,840	5 3
	" Interest, &c. (on Investments),	1,560	2 1
	" Investment repaid,	5,000	" "
	" Income Tax,	8	8 10
	" Charges,	44	17 2
		17,933	" "
		17,933	" "
1875, Jan. 31	By Insurance Premium paid,	£ 1,240	d. " " 5
	" Claims paid,	2,950	" " 8
	" Surrenders, &c.	220	13 " 3
	" Investments,	8,720	" " 6
	" Policy, &c., Stamps,	35	8 " 6
	" Agents,	1,500	" " 8
	" Income Tax,	85	9 " 3
	" Charges,	220	16 " 4
	" Balances due by Bankers,	2,959	17 " 8
		17,933	" "
		17,933	" "
1874, Dec. 31	Balances due by Banks at 31st Dec. 1874,	£ 5,360	d. " " "
1875, Jan. 31	Drawn Royal Bank, . . £4020 0 0		
	" National Bank, . . 1780 15 0		
	Lodged Royal Bank, £5800 15 0		
	" Nat. Bank, £1427 0 0		
		2,400	2 4
		2,959	17 8
	Balances due by Banks at 31st Jan. 1875,	2,959	17 8
	Viz:—Royal Bank, . . £1843 10 6		
	National Bank, . . 1116 7 8		
		£2959 17 8	

CHAPTER II.

A SHIPPING COMPANY'S BOOKS

HAVING for some years acted as Auditor of an extensive Steam Shipping Company, the books of which have been kept at the head office and terminals in a manner that has often elicited his special approbation, the Author has received permission from the Manager to give a specimen of these books, as a model which he can strongly recommend in every respect.

For obvious reasons, the name of the Company and the peculiar trade have been altered; and the form of books which are now given are more to illustrate the system by a few entries, than to show the whole operations of the concern—that is, the entries which follow will not be found to bring out the Balance-Sheet with which the series closes, but are merely introduced as specimens of the system.

Of all commercial companies there are none which require greater regularity and attention in the management of their books than Shipping Companies; every entry must be made without delay, and the day's work must be brought up before the day closes. To ensure this it is essential that only the best clerks should be employed, possessing a thorough knowledge of Book-keeping, backed by energy and perseverance. In the Company above referred to, the whole books at the head office can be balanced, and a Balance-Sheet laid before the owners in the course of a few hours, although its operations are very extensive, involving many thousands of pounds of annual revenue.

So simple is the system—and it is not by any means a new one, having been adopted by the Company *fifty years ago*—that it is hardly possible to make an error, unless with a fraudulent intention, and that would be easily detected by the system of audit which has been pursued. With such official machinery as is possessed by this Company, an experienced manager, efficient clerks, trustworthy masters of ships, and energetic agents, it is satisfactory to find that transactions are recorded in so simple a manner that credit is conferred upon one and all; while, at the same time, the duties of an Auditor, although

onerous enough, when the heavy responsibilities involved are taken into consideration, are made easy and pleasant to perform. So much for a good system of Book-keeping.

This set of books consists of the following:—

- 1st. A CASH BOOK, ruled in a peculiar manner, but exhibiting results which are essential to instruct the managers as to the working of the concern.
- 2d. A JOURNAL, which fully explains itself.
- 3d. A LEDGER, which is not given here, as it is of the ordinary form, and is fully represented in the Balance-Sheet.
- 4th. MANIFEST BOOK (INWARDS), showing the Goods shipped home.
- 5th. MANIFEST BOOK (OUTWARDS) showing the Goods shipped away.
- 6th. SHARE LEDGER, showing the holdings of partners in the concern.

This form of Share Ledger, which, it will be observed, differs very much from the one so strongly recommended in Section IV., page 53, is merely given here as that used by the Shipping Company referred to, and being an old form, lacking several recent improvements, is not now recommended to be adopted.

The Merchant Shipping Act, 1854, sect. 37, provides that the property in a ship shall be divided into sixty-four shares, and not more than thirty-two persons can be registered as owners of one ship; five persons may jointly hold one share, and shall be considered as constituting one person; and a body corporate can be registered as owner by its corporate name.

These facts are merely given as explanatory of the difficulty which sometimes occurs to the uninitiated in a matter of the ownership of vessels.

A Balance-Sheet is also exhibited, which shows the final results of the books, after effect has been given to the closing entries, which will be found at the end of the Journal.

These "Closing Entries" are sums carried to the Debit or Credit of "Profit and Loss Account," to bring out the actual gain or loss on the year. Here the gross profit appears to have been £18,134: 18: 6, which is affected by *cross entries*, amounting to £15,882, for "Trade Charges," "Repairs to Ships," "Ship's Chandlery," "Disbursements," "Coals," "Ship Insurance," and "Depreciation," leaving £2252 18s. 6d. of a balance, out of which £2000 is set apart for a dividend, and £252: 18: 6 remains as a balance on Profit and Loss Account, to be carried forward to next year.

This is a most perfect system, and can be highly recommended by the Author.

Dr.		CASH.											
		Inward Petty Freights.			Outward Petty Freights.			Led. fol.	Total Receipts.				
		£	s.	d.	£	s.	d.	£	s.	d.	£	s.	d.
1873, Dec.	1 To Balances from November a/c.										50	6	3
	4 " Caledonian Bank,							20			100		
	5 " James Young,	46	6	3				312					
	" James Mitchell,	16	9	11				234					
	8 " Thomas Thomson,	11	8	4				274					
	" Inward Ledger a/c.							112	74	4	6		
	12 " Petty Cash Book, No. 1,				250	2	3						
	" Petty Cash Book, No. 2,							108	2	3			
	16 " Thomas Chalmers,	30	3	6				30					
	" J. Wishart & Co.	43	6	7				342					
	" C. Tennant,	14	1	2				328					
	" R. Young,	2	8	4				365					
	" Outward Ledger a/c.							74	89	19	7		
	23 " Petty Cash Book, No. 1,				80	2	8						
	" Petty Cash Book, No. 2,							59	2	11			
	" Bills Receivable, No. 24 discounted,							35	25				
	" Inward Petty Freights,							136	330	4	11		
	" Outward Petty do.							95	167	5	2		
											837		5

CONTRA.										Cr.						
		Trade Charges.			Charges on Goods.			Vessels' Disbursements.			Led. fol.	Voucher.	Total Payments.			
		£	s.	d.	£	s.	d.	£	s.	d.			£	s.	d.	
1873, Dec.	1 By Shore Dues,							42	1	6		1				
	" Light Dues,							5								
	5 " Charges on Goods, William Nixon, for Coals,				5	6	3					2				
	8 " Postages, per Book, Telegrams,	16										173	3	68	10	
	" J. Davidson, laborage,							35	6	2		4				
	" J. Day, coaling,							11	2	1		5				
	10 " Robert Innes, repairs,										197	6	30			
	12 " Wood Bros., repairs, James Brown, wages,										216	7	43	4	6	
	" Exchange & Discount,										268	8	80			
	" Caledonian Bank,											20		250		
	16 " George Aitken & Co., stores,											232	9	16		
	" John Wilson, stores,											245	10	8	2	6
	18 " Robert Ainslie,											257	11	5	6	
	23 " Cleaning Office,											10				
	" Salaries, per List,	60														
	" Rent of Office,	10														
	" Charges on Goods,				1	5										
	" Pilotage and Towage,									5						
	" William Nixon, Coal Account,											173	16	100		
	" Caledonian Bank,											20		35		
	" Porterage,									4		17				
	" Trade Charges,										310		71	12	6	
	" Charges on Goods,										145		6	11	3	
	" Vessels' disbursements,										301		97	15	9	
	31 " Balance to next a/c.												24	17	11	
											837		5			

JOURNAL—Wednesday, 23 ^d December 1873.														
	Led. fol. Dr.	Led. fol. Cr.				Dr.			Cr.					
			£	s.	d.	£	s.	d.	£	s.	d.	£	s.	d.
Ship Insurance a/c. Dr.	281	"	"	"	"	"	"	"	1272	"	"	1272	"	"
To Philpot, Son, & Co	"	156	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
For Insurance on s.s. "Anglia," for twelve months from 1st inst., £30,000 @ £7 per cent.	"	"	1400	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
Less 10 per cent. discount on Net Prem., £1330,	"	"	133	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
Add Policy Duty,	"	"	"	"	"	5	"	"	"	"	"	"	"	"
29th.														
Sundries Dr. to Sundries, for Freight to London per "Anglia." London Agency, Freights,	"	"	"	"	"	214	11	8	"	"	"	"	"	"
" " Charges,	"	"	"	"	"	6	11	3	231	2	11	"	"	"
Outward Ledger a/cs.	74	"	"	"	"	"	"	"	94	10	"	"	"	"
Petty Outward Freights,	95	"	"	"	"	"	"	"	30	4	2	"	"	"
To "Anglia," a/c.-curr.	"	290	"	"	"	"	"	"	"	"	"	292	8	2
To Charges Outward,	"	147	"	"	"	"	"	"	"	"	"	6	11	3
To London Agency, for Wharf- ages, &c.	"	52	"	"	"	"	"	"	"	"	"	46	17	8
As per Manifest.	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
Sundries Dr. to Sundries, for Freight from London, per "Anglia." London Agency, Freights,	5	"	"	"	"	"	"	"	14	18	"	"	"	"
Inward Ledger a/cs.	112	"	"	"	"	"	"	"	25	11	9	"	"	"
Petty Inward Freights,	136	"	"	"	"	"	"	"	6	17	11	"	"	"
To "Anglia," a/c.-curr.	"	290	"	"	"	"	"	"	"	"	"	44	18	4
To London Agency, Wharf- ages, &c.	"	"	"	"	"	119	3	"	"	"	"	"	"	"
Charges,	"	"	"	"	"	10	1	"	"	"	"	"	"	"
As per Manifest.	"	52	"	"	"	"	"	"	"	"	"	2	9	4
Disbursement a/c. Dr.	301	"	"	"	"	"	"	"	160	13	4	"	"	"
To Jas. Brown, master,	"	268	"	"	"	"	"	"	"	"	"	160	13	4
For disbursements for wages, &c. this month, per book.	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
Carried forward,									1825	18	1	1825	18	1

JOURNAL—Thursday, 31 st December 1873.														
	Led. fol. Dr.	Led. fol. Cr.				Dr.			Cr.					
			£	s.	d.	£	s.	d.	£	s.	d.	£	s.	d.
Brought forward,														
Sundries Dr. to London Agency— Trade Charges Dr.	310	"	"	"	"	"	"	"	50	6	4	1825	18	1
For General Office Expenses for month.	322	"	"	"	"	"	"	"	14	13	6	"	"	"
Repairs a/c. Dr.	334	"	"	"	"	"	"	"	16	19	3	"	"	"
For Shipwright and Engineer's a/cs.	301	"	"	"	"	"	"	"	120	14	7	"	"	"
Ship-Chandlery a/c. Dr.	368	"	"	"	"	"	"	"	15	"	"	"	"	"
For Ropes, Oil, Paint, &c., per Invoices.	340	"	"	"	"	"	"	"	28	3	"	"	"	"
Disbursement a/c. Dr.	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
For Port Charges, Laborage, &c., paid this month at London.	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
James Brown Dr.	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
For Cash received to acct.	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
Collision a/c. Dr.	"	"	25	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
For damage done to barge "Mar- garet" in tier by s.s. Anglia," 4th Dec., to be recovered from Underwriters,	"	"	2	2	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
For Survey Fees,	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
Add Agent's charge for arranging compromise of claim,	"	"	"	"	"	"	"	"	1	1	"	"	"	"
To London Agency,	"	52	"	"	"	"	"	"	"	"	"	245	16	8
Per Acct.-Curr. for Dec.	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
Coal a/c. Dr.	315	"	"	"	"	"	"	"	325	"	"	"	"	"
To Wm. Nixon,	"	173	"	"	"	"	"	"	"	"	"	325	"	"
For 650 tons Steam Coal, @ 10s. per ton, net cash.	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
Repairs a/c. Dr. to Sundries,	322	"	"	"	"	"	"	"	67	10	8	"	"	"
To Robert Innes,	"	197	"	"	"	"	"	"	"	"	"	20	4	5
For sundry Shipwright Repairs, per book.	"	216	"	"	"	"	"	"	"	"	"	47	6	3
To Wood Bros. & Co.	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
For Engine and Boiler Repairs, per book.	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
Carried forward,									2464	5	5	2464	5	5

FORM OF						
<i>Dr. JAMES FERGUSON, Merchant.</i>						
Date.	Shares transferred to.	No. of Shares.	Particulars of Nos.	Registry No.	Journal Folio.	Original Value.
<i>Dr. ROBERT FINLAY, Agent,</i>						
Date.	Shares transferred to.	No. of Shares.	Particulars of Nos.	Registry No.	Journal Folio.	Original Value.
1847,						£ s. d.
Apr. 1	To W. Forrester,	5	145/149	25	4	50 " "
Dec. 31	" Balance, . .	10	150/159	"	"	100 " "
		15				150 " "
<i>Dr. WILLIAM FORRESTER, Factor,</i>						
Date.	Shares transferred to.	No. of Shares.	Particulars of Nos.	Registry No.	Journal Folio.	Original Value.

SHARE LEDGER.						
<i>Peterhead.</i>						<i>Cr.</i>
Date.	Shares transferred to.	No. of Shares.	Particulars of Nos.	Registry No.	Journal Folio.	Original Value.
1874.						£ s. d.
Mar. 2	By Stock a/c. .	10	135/144	23	3	100 " "
<i>Peterhead</i>						<i>Cr.</i>
Date.	Shares transferred to.	No. of Shares.	Particulars of Nos.	Registry No.	Journal Folio.	Original Value.
1874.						
Mar. 2	By Stock a/c.	15	145/159	24	3	150 " "
		15				150 " "
Dec. 31	By Balance, .	10	150/159	"	"	100 " "
<i>Peterhead.</i>						<i>Cr.</i>
Date.	Shares transferred to.	No. of Shares.	Particulars of Nos.	Registry No.	Journal Folio.	Original Value.
1874.						
Mar. 2	By Stock a/c. .	20	160/179	25	3	200 " "
Apr. 1	R. Finlay,	5	145/146	24	4	50 " "
		25				250 " "

CHAPTER III.

THE "COST BOOK" SYSTEM FOR MINES, QUARRIES, &c. FULLY EXPLAINED.

THE Author cannot conclude this part devoted to Double Entry without giving an explanation of a system which, if combined with a good set of books, bids fair to prove an invaluable boon to that part of the community which invests its capital in mines and other concerns of that nature.

The Author is not aware who is the originator of the "Cost Book" system, but it must have emanated from one who had much practical knowledge, and was thoroughly experienced in the subject, as it is, without doubt, one of the cleverest systems of check introduced into modern Book-keeping.

It is especially adapted to mines, quarries, collieries, &c., in which there are several workings, galleries, or levels; but, at same time, there can be no doubt that it might also be easily applied to any business where "labour employed" forms a large element, and "raw materials" are used in the manufacture of finished goods; and it would be seen to much greater advantage in a concern where *several* staple manufactures were carried on in separate departments, but under one management, involving a constant expenditure varying only in amount.

Its practical advantages, to the mining public especially, are so potent and numerous, that the Author has no hesitation in advocating its use in all concerns of the above description; feeling confident that, when once in operation, a trader could at all times ascertain, monthly, the exact "cost" of each article manufactured by him, as well as to check waste, had management, or even fraud, with facility.

From the peculiar construction of the book, some of its pages requiring to be cut to a particular pattern, and from the limited size of this volume, the Author is unable to give a full and complete working specimen; but it may be described, generally, as a Tabular Statement showing six months working on the face of each sheet. Each page,

except the first one, is cut in such a manner that it is half an inch shorter at the foot than the one immediately preceding it, thereby exposing the summation of that page. In this way, supposing a colliery has eleven workings or galleries, and allowing one page to each working, on turning up the twelfth page, the summations of the eleven preceding pages are exposed to view; and they, along with the summation of the twelfth or last page, which is always devoted to what is called "ONCOST," can then be summed into one grand total for the whole colliery. The word "ONCOST" is used to express all expenses not directly incurred by any one department or section of a business; such as management, office expenses, rates taxes, rents, wharfage, carriage, freights, &c., which are common to the *whole* work.—(See *Specimen annexed*, page 73).

Again, down the left hand margin of the *first* page, are written the different articles used, labour employed, or charges incurred and paid (forming items of "Cost"), all arranged under special branches; but each item being placed on a separate line, and the margins of the succeeding pages being cut away, these branches and their subdivisions are exposed to view, and serve for all the eleven pages without repetition, which not only economises labour to the book-keeper, but insures uniformity and regularity.

Specimens of the *first* and *twelfth* pages of a "Cost" Book, applicable to a slate quarry, are annexed to this section; and although they can only convey a superficial idea of the use and value of the system, still, to the experienced book-keeper, they cannot fail, when studied along with this explanation, to show sufficient good points to recommend it.

On reference to them, the reader will note that each Monthly Column is divided into *four* sections, viz:—

- (1.) Folio of Subsidiary Book kept at the work or place of business from whence the sum expended is taken.
- (2.) Amount expended.
- (3.) In such concerns as mines, quarries, collieries, &c., where rock, earth, or other substances, known under the name of "dead work," of no value, require to be removed in the ordinary working or the concern, this column shows, in decimals of *one penny sterling*, the rate per ton which the amount expended (No. 2 above) bears to such dead work; and,
- (5.) This column shows, also in decimals of one penny, the rate per ton which the amount expended (No. 2 above) bears to

the article produced, which in the specimen annexed is SLATE.

These last two columns (Nos. 3 and 4) are calculated so minutely, the decimal being subject to a variation of *one hundredth part of a penny*, that the slightest change tells to a certainty whether the cost of removing dead work, commonly called "untopping," or the cost of "production" is increasing or decreasing.

Although in the specimen annexed the decimal of every individual item is extended, in many cases it would suffice merely to extend the decimal of the *summation* of each branch, such as that applicable to Total for "Quarry Labour," "Quarry Tools," "Tramways," "Waggon," &c, marked with an asterisk (*) in specimen annexed (see page 72), which would, doubtless, save the book-keeper a great deal of work, and probably sufficiently suit the trader's requirements.

On reference to the specimen (page 72), the reader will see that the "cost" of "Blasting Materials" used in January 1874, in the particular quarry and gallery, No. 1³, represented by that page, is £31:9:8; which, being put against 5794 tons of "rock removed" (see top of column), gives a rate per ton of 1.30d., being "cost" of dead work, and the same sum being put against 1370 tons of "Slates produced," gives 5.51d. per ton, or "cost" of the *manufactured article*, so as blasting materials *à one* are concerned.

Perhaps the information thus obtained when taken by itself, will be of little, if any, use to the trader; but when he begins to compare one month with another, say January with February, and February with March, it is then that the true value of the Cost Book asserts itself, and places in his hands a certain means of detecting mismanagement, extravagance, or fraud.

Continuing the statistics specially relating to the one item of "Blasting Materials" commenced above, for four or five months, we have—

	Amount expended for Blasting Materials.			Rock removed, or Dead Work.	Rate per Ton.	Slates produced, or Output.	Rate per Ton.
	£	s.	d.	Tons.	d.	Tons.	d.
January 1874, . . .	31	9	8	5794	1.30	1370	5.51
February " . . .	29	4	2	4420	1.55	1542	4.54
March " . . .	34	5	3	4942	1.66	1530	5.37
April " . . .	26	14	1	4256	1.50	1600	4.00
May " . . .	27	2	1	3974	1.63	1575	4.13
June " . . .	32	18	4	4098	1.34	1723	3.19

Upon analysing these figures, it will be observed that the "dead work" has decreased, while the slates made are on the increase; and that the rate per ton on the latter is decreasing in an inverse ratio to the "output," thereby proving, beyond a doubt, that this particular quarry and gallery is doing well, so far as blasting materials are concerned, either by economy, good management or purchasing the materials required for blasting at a cheap rate.

On the other hand, had the output been decreasing, and the rate of blasting materials increasing, the trader might then have entertained just suspicions of mismanagement, or waste, as the decimals of a penny are susceptible of the slightest variation in the sum expended.

In this way a department, gallery, or special article of manufacture may be scrutinized monthly, and on the first appearance of a change to such an extent that the ordinary equilibrium of the decimal rate is seriously disturbed, the trader has it in his power to request an explanation from his manager or foreman. For example, in the specimen annexed, the "Waggon" branch, which in January amounts to £2:7:1, suddenly rises to £54:4:10 in February; but an explanation is offered, that in the beginning of February several waggons were precipitated over an embankment, which necessitated rather heavy repairs, hence the increase.

Should a special department be seen at any time to be working month after month at a *loss*, the Cost Book affords the trader an opportunity of either altering the management or expenses of manufacture, and carefully noting the result, or perhaps entirely *stopping* that branch of manufacture, before he is half ruined, or finds out, when too late, that he has from the commencement been attributing the loss to some other branch, which, by the Cost Book would have been clearly proved to have been actually a source of profit.

When the concern is managed by a BOARD of DIRECTORS, such as in a Limited Company, the Cost Book is invaluable, as each Director may obtain a perusal of it monthly at the Board Meetings, so that he cannot fail to be kept advised of all the statistics, however small, relating to expenditure.

The author may as well mention that the Cost Book forms a valuable addition to a good set of Double Entry Book, though not of itself necessary to insure a balance. It certainly forms an excellent preparatory medium for "journalizing" the monthly expenditure, and on reference to the annexed specimen, "Abstract of Cost Book" (page 74), it will be seen that the upper portion is merely a *résumé* of the Cost Book itself, and when journalized, each sum is carried to the

DEBIT of the several quarries or galleries, each of which has a separate and distinct Ledger Account.

The *under* portion, which forms the CREDIT side of the Journal Entry, represents the leading Ledger Accounts, influenced by Expenditure. These Accounts having in the first place been debited with the stores purchased for cash or credit, taxes, charges, and wages actually paid during each month, per Pay Sheet the Cross Entries, above described, taken from the Cost Book, transfer all these items of cost to the *debit* of the respective departments, in which, or for the behoof of which, they were incurred, leaving no Balance whatever remaining at the debit of the Accounts enumerated in the lower portion of Abstract (page 74), except in the case of "Stores" which should always exhibit a Balance representing the "Stooks on hand."

Therefore, the final result of this system is, that where in most ordinary systems expenses of every kind are debited direct to "Wages," "Charges," "Discount," and other ordinary accounts the COST BOOK system debits the department, gallery, or special article of manufacture with all wages, stores, and charges specially incurred in the manufacture of the same, so that each department or section stands entirely on its own basis; and any GAIN or Loss thereon can be immediately detected, and at the end of any stated period a single glance at the LEDGER BALANCES tells at once whether a department is gaining or losing, or doing better or worse than its neighbour; and this without interfering in the slightest degree with the General Balance of the whole books of the Company.

For example, take the Ledger Account of Quarry No. 1, Gallery No. 3 (No. 1st in illustration annexed), and assuming that the Slates made in that particular Quarry are valued at 20s. per ton, the Account at the end of February 1874 would stand thus;—

LEDGER ACCOUNT.										
Dr.			Quarry No. 1.				Cr.			
1874,			£	s.	d.	1874,		£	s.	d.
Jan. 31	To Sundries,					Jan. 31	By Slates made,	1370	"	"
	Cost Book,		765	6	6	Fed. 28	" Do.	1542	"	"
Fed. 28	" Do.		846	19	5					
			1612	6	"					
" "	P.&L. a/c.		1299	14	"					
			2912	"	"			2912	"	"

This Balance of £1299 : 14s. represents *two* months *gross* profit on the mere working of this Quarry. On the other hand, if the debit side exceeded the credit, it would prove that the Quarry was working at a "Loss." Should it be necessary to ascertain the Profit or Loss on the *whole* concern at 28th February 1874, this Balance of £1289 : 14s., along with all the Balances standing on the other Quarry Accounts, would be carried to "Profit and Loss Account," which being also debited with the Balance standing at the debit of "General Oncost Account," the difference would be the *net* Gain or Loss on the whole concern, which would be further altered by writing off bad debts, depreciation of plant and machinery, preliminary expenses, sum, carried to reserve fund or set aside for redemption of lease, &c. &c., allowing what is left (if a profit) available for payment of a dividend.

In order to understand the specimens annexed, it may be explained that in a working copy of the Cost Book the summations marked with an *asterisk* (*) are entered in *red ink*, so as to interfere as little as possible with the general summation of the columns. Each sheet, consisting of two pages, is ruled with *seven* monthly columns, which suffice for half a year's work, and provide a "Total" column, by which the several departments may be compared.

Specimens of pages 1 and 12 *only* are here given, but pages 2 to 11 inclusive are exact counterparts of page 1, each being devoted to a particular gallery, the same marginal branches, however, applying to all.

It must be explained, however, with reference to the decimal calculations of the several *Totals* at foot of page 72, that in the case of "Quarries or Galleries" each will be calculated on the tonnage of dead work and output proper to the month and individual quarry or gallery under review, which will be found at head of each page; but in the case of General Oncost, Incline Tramway, and Burleigh Rock Drill, which are *not* individually productive, as well as the GRAND TOTAL at foot of page 72, the basis employed will be the *total tonnage* for the *whole* work, which will be found at head of the pages devoted to these Accounts (*see* page 73.)

The GRAND TOTAL for the two months here given, show that each ton of "Rock removed" has *cost* 8s. 8½d. in January, and 8s. 11¾d. in February; whilst each ton of "Slates produced" has *cost* 17s. 5¼d. and 12s. 5¾d. respectively,—thus showing a most decided improvement in the working of the concern.

Although the Cost Book annexed is only adapted to *eleven* departments, the system may easily be extended to any number, so as to suit most ordinary businesses.

Page 1.		31st January 1874.				28th February 1874.			
		TONS.	C.	Q.	Amount per Ton of	TONS.	C.	Q.	Amount per Ton of
Rock Removed, . . .		574	"	"	Rock Removed	420	"	"	Rock Removed
Slates Produced, . . .		1370	"	"		1542	"	"	
Yield of Rock, . . .		One in 4.2			One in 2.9				
		Fol.	Amount Expended.	Dec. of Id.	Dec. of Id.	Fol.	Amount Expended.	Dec. of Id.	Dec. of Id.
* Quarry Labour.	Rockmen, . . .	73	£ 504	s. 2	d. "	20-88	88-31		
	Rubblenmen, . . .								
	Splitters & Dressers, . . .								
	Weighers, . . .		22	15	3	94	3-98		
	Tipheadmen, . . .		14	14	3	61	2-57		
	Tool Carriers, . . .	25	5	10	9	23	97		
	Engine Driver, . . .	73	11	"	"	45	1-92		
	Total, . . .		558	2	3	23-11	97-75		
* Quar. Tools.	Blasting Materials, . . .	74	31	9	8	1-30	5-51		
	Iron and Steel, . . .	80	1	8	1	06	24		
	Labour, . . .	63	3	12	9	15	63		
	Total, . . .		36	10	6	1-51	6-38		
* -Tramways.	Iron and Steel, . . .		"	"	"				
	Sleepers, . . .	94	10	"	"	41	1-75		
	Other Timber, . . .		"	"	"				
	General Furnishings, . . .		"	"	"				
	Labour, . . .	42	2	"	10	08	35		
	Total, . . .		12	"	10	49	2-10		
* -Waggons.	Iron and Steel, . . .	28	1	5	4	05	22		
	Timber, . . .		"	"	"				
	General Furnishings, . . .		"	3	6	01	03		
	Labour, . . .	60	"	18	3	04	16		
	Total, . . .		2	7	1	10	41		
* -Sundries.	General Furnishings, . . .	72	"	1	6	00	01		
	Iron and Steel, . . .		"	"	"				
	Timber (not Sleepers), . . .		"	"	"				
	Sleepers, . . .		"	"	"				
	Coals, . . .	81	15	"	"	62	2-62		
	Oils, . . .	83	1	10	2	06	26		
	Mechanics & Labourers, . . .		"	"	"				
	Royalty, . . .	96	137	"	"	5-67	24-00		
	Horse Provender, . . .	100	2	10	"	10	43		
	Repairs by Tradesmen, . . .	82	"	4	2	01	03		
	Total, . . .		156	5	10	6-46	27-35		
Totals.	General Oncost, . . .	Page 12							
	Incline Tramway, . . .	11							
	Burleigh Rock Drill, . . .	10							
	5 ³ (Tunnel), . . .	9							
	5 ⁴ (Sink ²), . . .	8							
	5 ⁴ (Sink ¹), . . .	7							
	5 ⁴ (Cut and Tunnel), . . .	6							
	5 ⁴ (Quarry), . . .	5							
	5 ³ (do.), . . .	4							
	5 ³ (do.), . . .	3							
	5 ¹ (do.), . . .	2							
	1 ³ (do.), . . .	1	765	6	6	31-67	133-99		
	GRAND TOTAL, . . .		3923	17	2	104-63	209-27		
								846-19	6 44-91 131-78
								4392	" 4 107-87 161-81

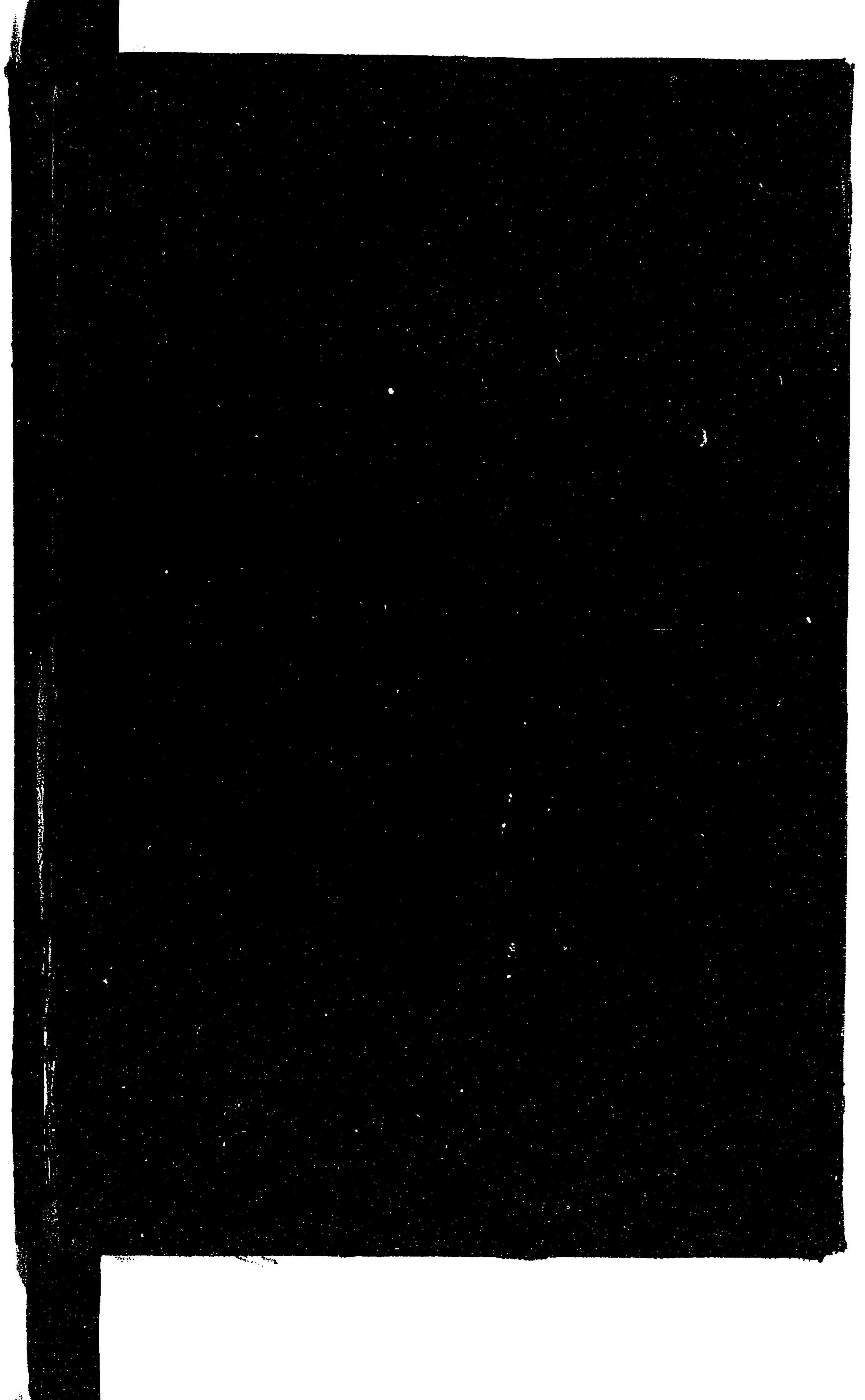
Page 12		31st January 1874.				28th February 1874.			
		TONS.	C.	Q.	Amount per Ton of	TONS.	C.	Q.	Amount per Ton of
TOTAL for MONTH.	Rock Removed, . . .	9000	"	"	Rock Removed	9771	"	"	Rock Removed
	Slates Produced, . . .	4500	"	"		6514	"	"	
	Yield of Rock, . . .	One in 2.			One in 1.5				
		Fol.	Amount Expended.	Dec. of Id.	Dec. of Id.	Fol.	Amount Expended.	Dec. of Id.	Dec. of Id.
	General Furnishings, . . .		£ "	s. "	d. "				
	Iron and Steel, . . .		"	"	"				
	Timber (not Sleepers), . . .		"	"	"				
	Oils, Grease, &c.		"	"	"				
	Sleepers,		"	"	"				
	Blasting Materials, . . .		"	"	"				
	Coals at Quarries, . . .	63	3	10	"	09	18		
	Lime,	19	"	"	9	08	16		
	Surface Damages, . . .	66	20	"	"	53	1-06		
	Rates and Taxes, . . .	90	14	6	8	38	76		
	Total, . . .		40	17	5	1-08	2-16		*
	Stationery, &c.	81	15	16	2	42	84		
	Charges,	40	54	"	10	1-44	2-88		
	Office Expenses,	53	3	"	"	08	16		
	Management,	33	90	3	1	2-40	4-81		
	Directors' Fees,		"	"	"				
	Law Expenses,		"	"	"				
	Travelling Expenses, . . .		"	"	"				
	Office Rent,		"	"	"				
	Do. Coals,		"	"	"				
	Total,		163	"	1	4-34	8-69		*
	Loading and Removing Slates from Quarries to Incline, . . .	30	40	1	"	1-06	2-12		
	Transit of Slates to Siding,	65	20	"	8	53	1-07		
	Loading do. at do.	13	30	2	6	80	1-61		
	Mechanics and Labourers Jobbing, . . .	18	30	"	4	80	1-60		
	Wharfage,	12	329	"	"	8-77	17-54		
	Total,		449	4	6	11-96	23-94		*
		P.12	653	2	"	17-38	34-79		
								644	6 9 15-82 23-73

NOTE—In a regular working copy of a Cost Book, this page (12), as well as all the intermediate pages, would not be placed opposite to page 1, as shown above, but they would cover and conceal page 1, with the exception of the summations at the foot; and, in the case of this page, the portion within this dotted line would be cut away, thereby exposing the words 'General Oncost' on page 1, which would be in line with, and opposite to the Summations of this page.

Page 13.
ABSTRACT OF COST BOOK.

Folio.	DEBTORS.	31st January 1874.			28th February 1874.		
		£.	s.	d.	£.	s.	d.
1	No. 1 ³ Quarry (see Specimen, p. 72),	765	6	6	846	19	6
2	" 5 ¹ do.	9	6	8	14	3	2
3	" 5 ² do.	1468	2	1	1300	"	1
4	" 5 ³ do.	34	3	2	230	"	6
5	" 5 ¹ do.	"	"	"	"	"	"
6	" " do. (Cut and Tunnel),	"	"	"	"	"	"
7	" " do. (Sinking Shaft, No. 1),	559	2	11	322	11	9
8	" " do. (Sinking Shaft, No. 2),	256	4	"	601	19	"
9	" 5 ³ do. Tunnel,	40	"	9	150	"	"
10	Burleigh Rock Drill,	101	"	"	281	19	7
11	Incline Tramway,	37	9	1	"	"	"
12	General Oncost (see Specimen, p. 73),	653	2	"	644	6	9
	TOTAL COST,	3923	17	2	4392	"	4
	CREDITORS.						
	STORES:—Timber, Iron, Steel, Oil, and General Furnishings, as per Warehouse Book,	421	"	"	562	4	1
	Sleepers,	45	"	4	3	"	"
	Blasting Materials,	157	6	2	231	4	8
	Coals,	57	10	1	40	"	"
	Lime,	3	"	9	"	"	"
	Total Stores,	683	17	4	836	8	9
	CHARGES:—Stationery, Postages, &c.	15	16	2	10	"	"
	Sundry Charges,	57	"	10	13	6	10
	Total Charges,	72	17	"	23	6	10
	WHARFAGE,	329	"	"	300	"	"
	RATES and TAXES,	14	6	8	"	"	"
	SURFACE DAMAGE,	20	"	"	"	"	"
	ROYALTY,	429	10	"	597	"	"
	WAGES (Net),	2374	6	2	2635	4	9
	SUM equal to TOTAL COST,	3923	17	2	4392	"	4

74
216



74
216

044638-000-8

74-216

商業簿記教科書

佐野 善作/著

M30

BDO-0271



